

宇和島市 人権に関する市民意識調査

報告書

—概要版—

令和 5 年 3 月

宇和島市

# 目次

<b>I 調査概要</b>	<b>1</b>
1 調査目的	1
2 調査事項	1
3 調査方法・調査時期	1
4 配布・回収結果	2
5 グラフ・表の見方	2
<b>II 調査結果</b>	<b>3</b>
1 人権問題に関する意識や考え方について	3
(1) 人権問題に関する意識について	3
(2) 自分の人権が侵害された経験について	4
(3) 人権が侵害されたときの対応について	6
(4) 「差別」について	7
(5) 暴力・虐待について	8
(6) 人権に関する法律についての認知度	10
(7) 暴力や虐待の問題に対して必要な取組	11
2 女性の人権問題について	12
(1) 女性の人権問題に関する考え	12
(2) 男女平等の社会になるために重要なこと	13
3 子どもの人権問題について	14
(1) 子どもの人権問題に関する考え	14
(2) 子どもの人権が守られるために必要なこと	15
4 高齢者の人権問題について	16
(1) 高齢者の人権問題に関する考え	16
(2) 高齢者の人権が守られるために必要なこと	17
5 障がいのある人の人権問題について	18
(1) 障がいのある人の人権問題に関する考え	18
(2) 障がいのある人の人権が守られるために必要なこと	19
6 部落差別に関する人権問題について	20
(1) 部落差別の認識について	20
(2) 部落差別に関する言動を見聞きした経験について	22
(3) 同和問題による結婚差別について	25
(4) 部落差別が残っている原因について	26
7 外国人の人権問題について	28
(1) 外国人の人権問題に関する考え	28
(2) 外国人の人権が守られるために必要なこと	29

8	感染症等（HIV、ハンセン病など）の人権問題について	30
	（1）感染症等（HIV、ハンセン病など）の人権問題に関する考え	30
	（2）感染症患者などの人権が守られるために必要なこと	31
	（3）新型コロナウイルス感染症の人権問題に関する考え	32
9	インターネット上の人権侵害について	33
	（1）インターネット上の人権問題に関する考え	33
	（2）インターネット上の人権侵害から人権を守るために必要なこと	34
10	性的マイノリティについて	35
	（1）LGBTQなどの性的マイノリティに関する問題について	35
	（2）性的マイノリティの人権を守るために必要なこと	36
11	災害・事故等による風評被害の人権問題について	37
	（1）災害・事故等による風評被害の人権問題について	37
12	宇和島市の人権教育・啓発について	38
	（1）宇和島市として今後力を入れる必要がある取組について	38
	（2）人権教育や人権啓発の講演会・研修会等に参加した経験について	39
	（3）人権意識の変化について	40
<b>Ⅲ</b>	<b>回答者の属性</b>	<b>41</b>
1	あなた自身のことについて	41
	（1）あなたの性別は	41
	（2）あなたの年齢は（令和4年11月1日現在）	41
	（3）あなたのお住まいの地域は	42
	（4）あなたの職業は	42

# I 調査概要

---

## 1 調査目的

宇和島市では、互いの人権が尊重される社会づくりをめざし、あらゆる差別や偏見を解消するためにさまざまな取組を進めています。本調査は、市民の皆さまが、日ごろ感じておられることを把握し、今後の人権施策に役立てるために実施しました。

## 2 調査事項

---

- 人権問題に関する意識や考え方について
- 女性の人権問題について
- 子どもの人権問題について
- 高齢者の人権問題について
- 障がいのある人の人権問題について
- 部落差別に関する人権問題について
- 外国人の人権問題について
- 感染症等（HIV、ハンセン病など）の人権問題について
- インターネット上の人権侵害について
- 性的マイノリティについて
- 災害・事故等による風評被害の人権問題について
- 宇和島市の人権教育・啓発について

## 3 調査方法・調査時期

---

調査対象者	市内在住の20歳以上の方
抽出方法	無作為抽出
調査実施期間	令和4年11月30日 ～12月19日
配布数	2,000
調査方法	郵送にて配布 郵送とWEBにて回収

## 4 配布・回収結果

	配布部数	回収部数	回収率 (%)
男性	1,000	348	34.8
女性	1,000	468	46.8
その他		1	
性別不明		21	
旧宇和島市地域	1,336	550	41.2
旧吉田町地域	250	106	42.4
旧三間町地域	150	58	38.7
旧津島町地域	264	101	38.3
地域不明		23	
20歳代	320	66	20.6
30歳代	320	98	30.6
40歳代	320	118	36.9
50歳代	320	168	52.5
60歳代	320	192	60.0
70歳以上	400	176	44.0
年齢不明		20	
合計(全体)	2,000	838	41.9
	WEB回答部数	222	11.1
	郵送回答部数	616	30.8

## 5 グラフ・表の見方

### ■報告書の見方

- 今回の調査項目では、以前に実施した設問内容に対して、逆説的な聞き方をしている設問があります。よって、前回調査と比べて、集計結果が大きく異なる設問があります。
- 回答結果の割合「%」は、回答者数(n)に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入しています。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100%にならない場合があります。
- 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの回答者数(n)に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、「%」合計が100%を超える場合があります。
- グラフ及び表中のn(number of case)は、集計対象者総数です。
- 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。

## II 調査結果

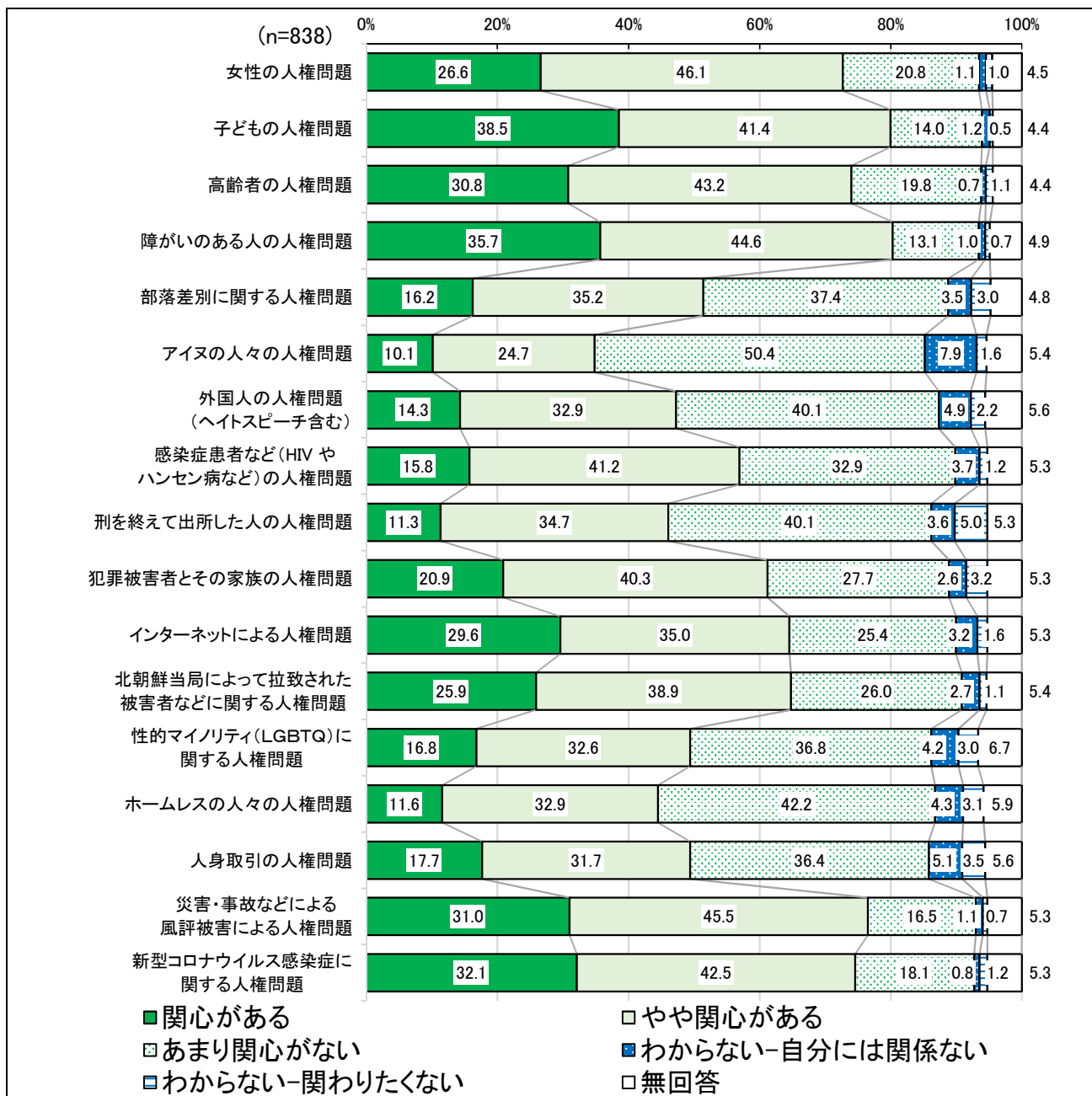
### I 人権問題に関する意識や考え方について

#### (1) 人権問題に関する意識について

問1 人権問題に関する次のア～チについて、身近な課題として関心があるかないかあなたのお考えに最も近いのはどれですか。(〇は項目ごとに1つずつ)

人権問題に関する考えについて関心が高い項目は、子どもの人権問題、障がいのある人の人権問題、新型コロナウイルス感染症に関する人権問題、災害・事故などによる風評被害による人権問題、高齢者の人権問題などとなっています。

図表1 人権問題に関する意識について (全体)



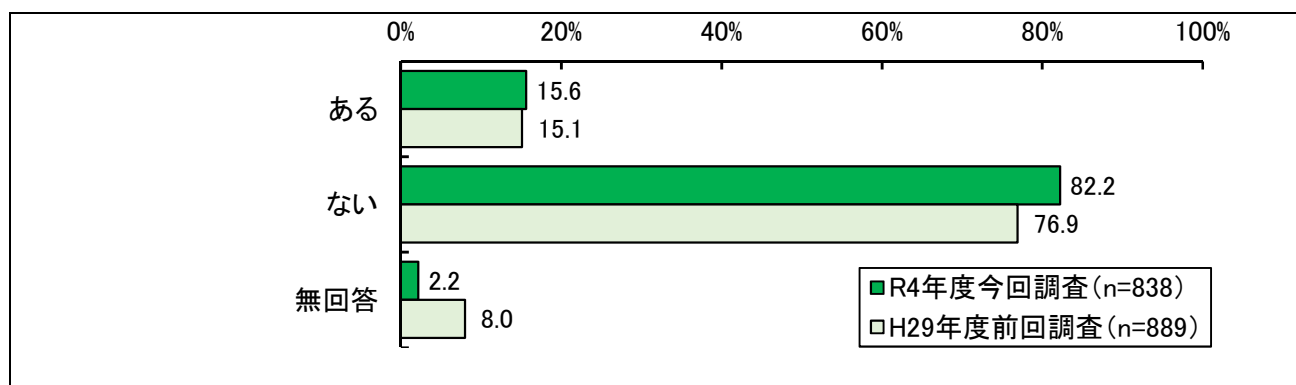
## (2) 自己的人権が侵害された経験について

問2 あなたは、最近（過去3年程度）、自己的人権が侵害されたと思ったことはありますか。（〇は1つ）

最近自己的人権が侵害されたと感じた経験の有無についてたずねたところ、「ない」が82.2%を占めており、「ある」（15.6%）を大きく上回っています。

前回調査と比べると、同様の傾向となっており、自己的人権が侵害されたと思ったことがある人は少ない傾向が続いています。

図表 2 自己的人権が侵害されたと感じた経験の有無について（全体、前回調査との比較）



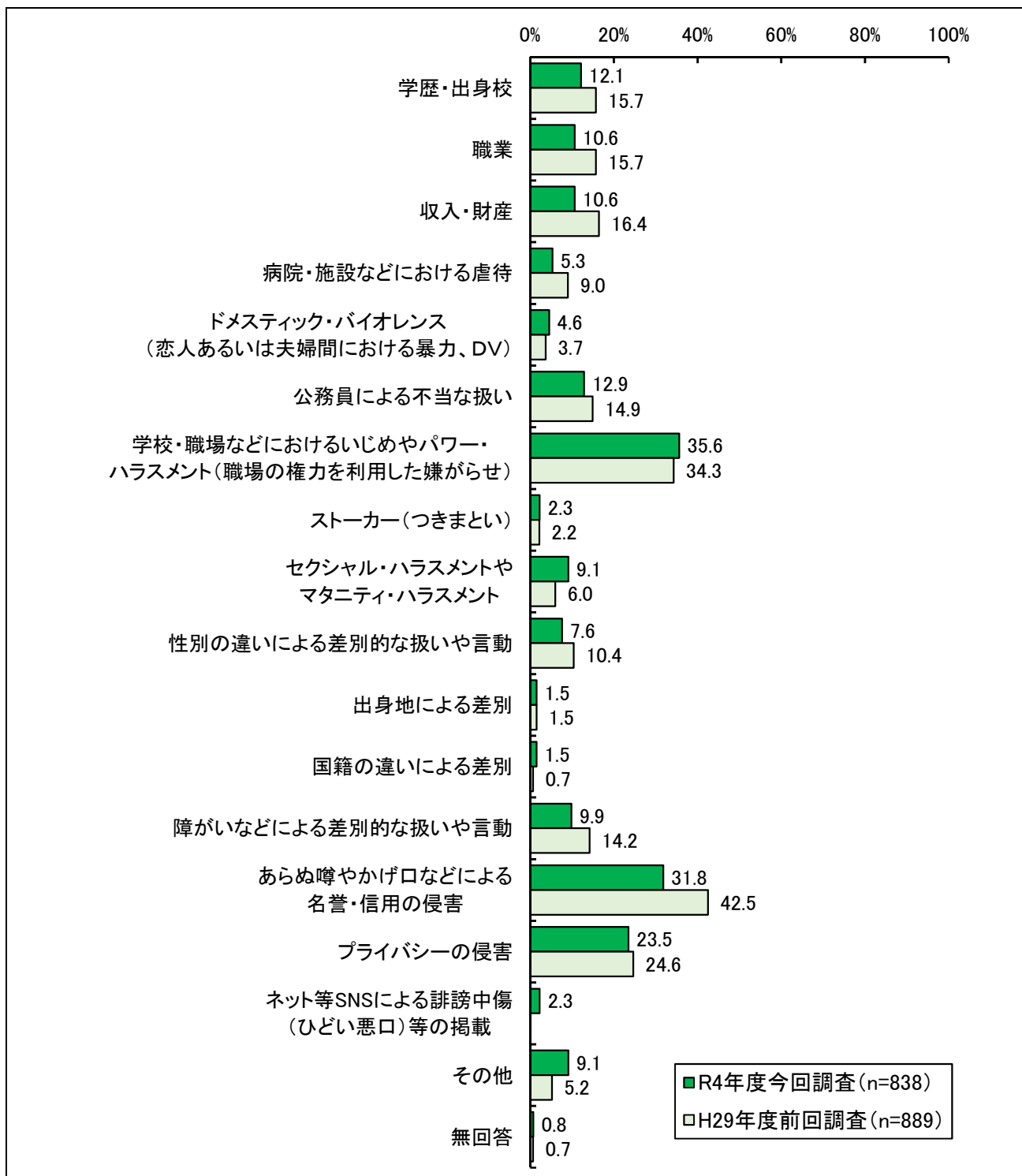
問2で「1 ある」と答えた方にお聞きします。

問2-1 その内容はどのようなものでしたか。(〇はいくつでも)

自分の人権が侵害されたと感じたことが「ある」と回答した方について、その内容をたずねたところ、「学校・職場などにおけるいじめやパワー・ハラスメント」が35.6%と最も多くなっています。

前回調査と比べると、「セクシャル・ハラスメントやマタニティ・ハラスメント」が3.1ポイントと最も多く増加しています。

図表 3 自己的人権が侵害されたと感じた内容について（全体、前回調査との比較／複数回答）





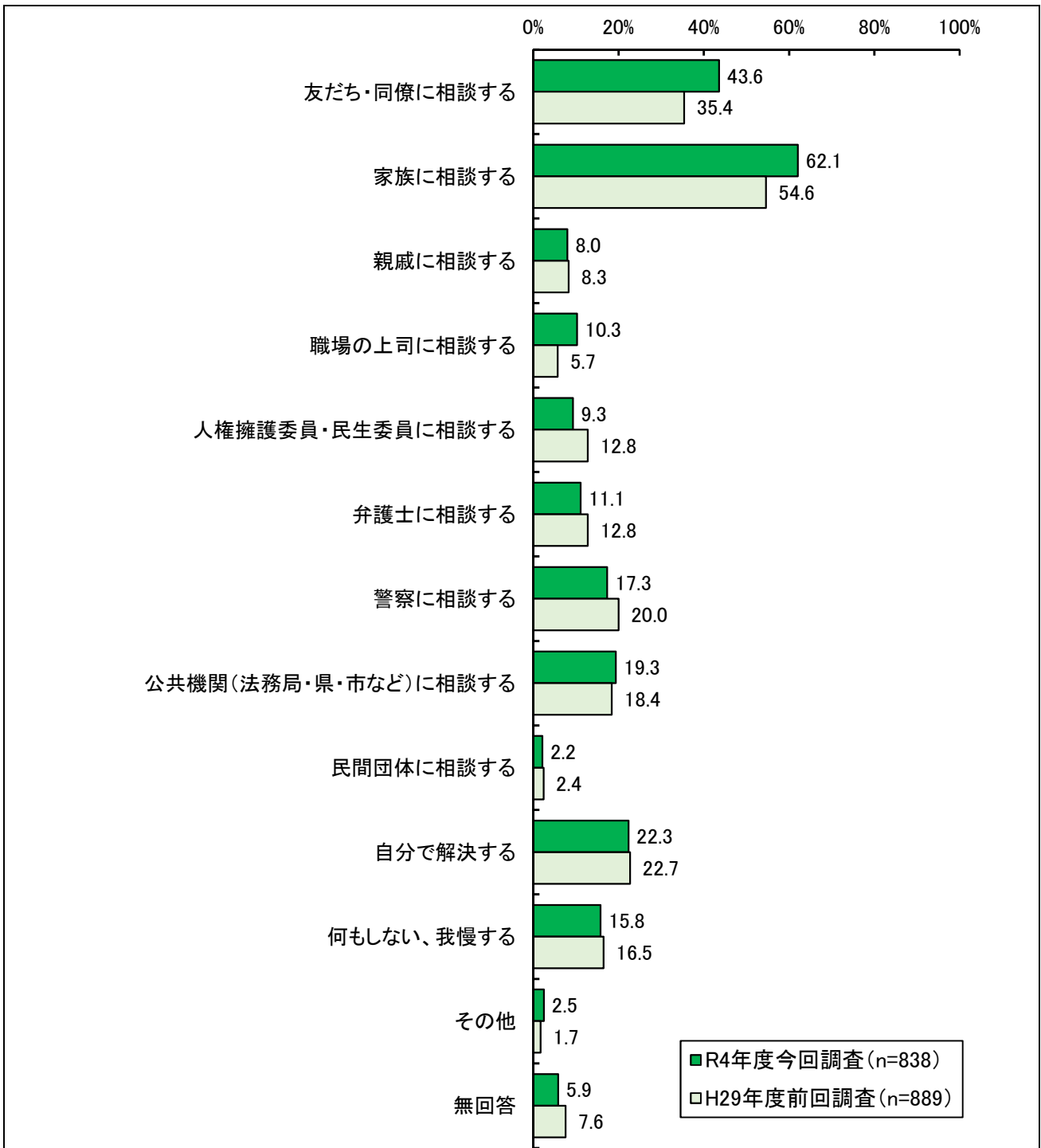
### (3) 人権が侵害されたときの対応について

**問3 あなた自身の人権が侵害されたとき、どのような対応をしますか。または、しましたか。(〇はいくつでも)**

自分の人権が侵害されたときの対応についてたずねたところ、家族や友だちに相談する傾向が多く見られる一方で、「自分で解決する」との回答も2割を超えています。

前回調査と比べると、家族や友達に相談する人が大きく増加しており、また「職場の上司に相談する」人も4.6ポイント増加しています。

図表 4 自分の人権が侵害されたときの対応について（全体、前回調査との比較／複数回答）



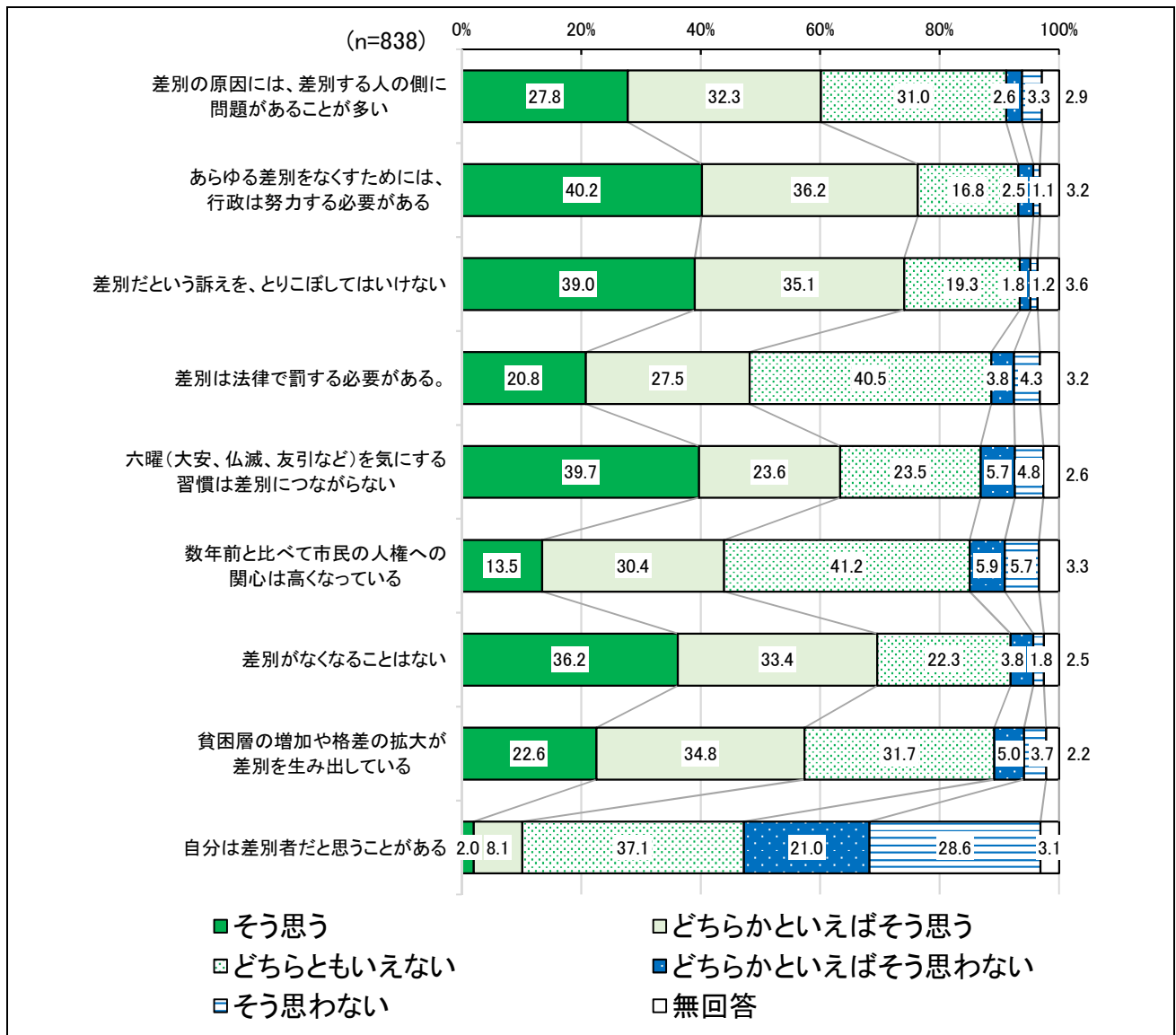
#### (4) 「差別」について

問4 一般的に「差別」というものについて、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。(〇は項目ごとに1つずつ)

「差別」というものに対する考えをたずねたところ、「そう思う」の割合については、「あらゆる差別をなくするためには、行政は努力する必要がある」(40.2%)が最も多くなっています。

また、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合をみると、「あらゆる差別をなくすためには、行政は努力する必要がある」(76.4%)「差別だという訴えを、とりこぼしてはいけない」(74.1%)が多く、行政に努力を求め、とりこぼしてはいけないと考える人が多い傾向がみられます。

図表5 「差別」に対する考えについて(全体)



## (5) 暴力・虐待について

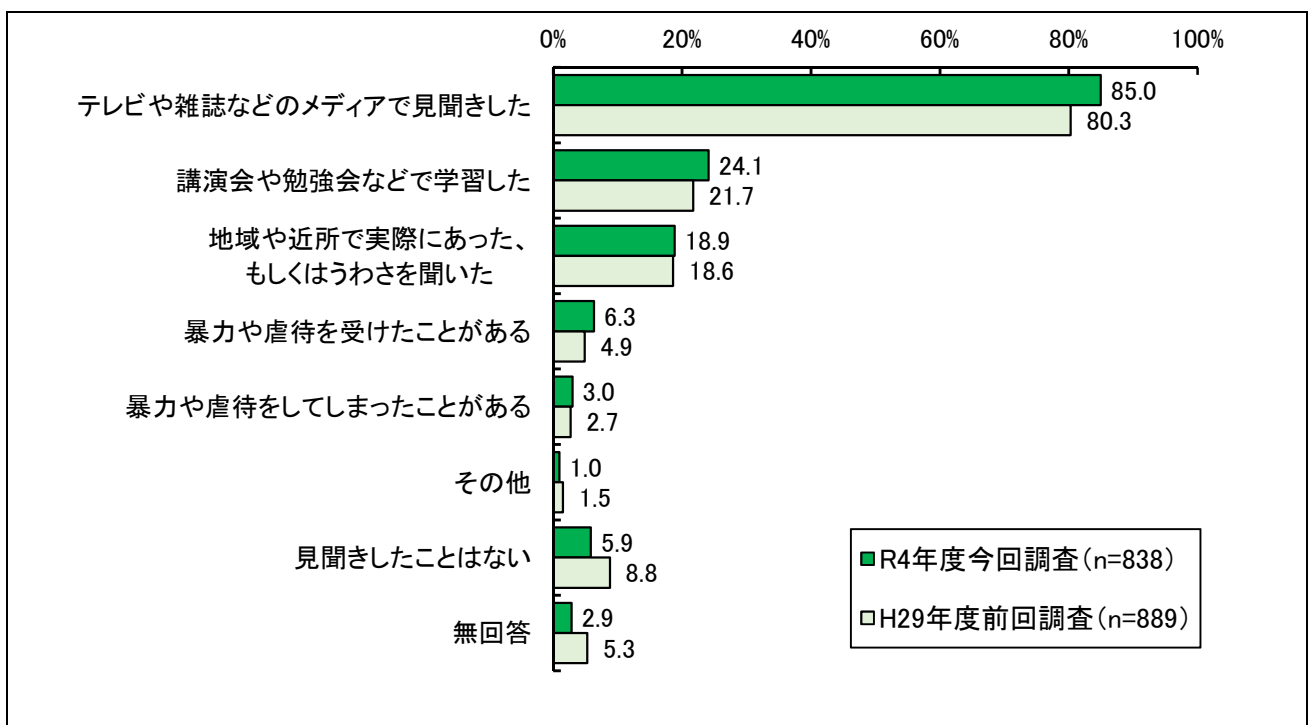
問5 あなたは今までに、高齢者・障がいのある人・配偶者・子どもなどに対する暴力や虐待の問題について体験したり、見聞きしたことはありますか。

(〇はいくつでも)

高齢者・障がいのある人・配偶者・子どもなどに対する暴力や虐待の経験や見聞きした内容については、「テレビや雑誌などのメディアで見聞きした」(85.0%)が最も多くなっています。

前回調査と比べると、「テレビや雑誌などのメディアで見聞きした」が4.7ポイント増加しています。

図表 6 暴力・虐待の経験や見聞きした内容(全体、前回調査との比較/複数回答)



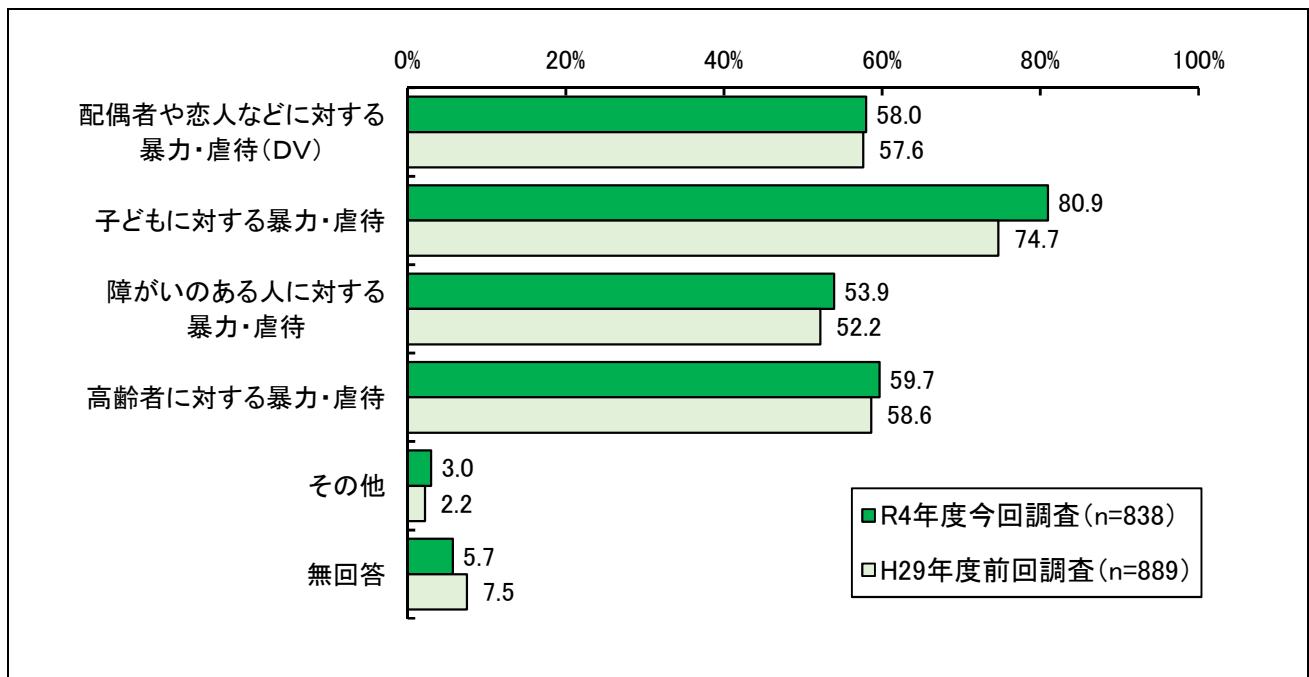
問5で「1」～「6」のいずれかと答えた方にお聞きします。

問5で「1」～「6」のいずれかと答えた方にお聞きします。

問5-1 誰に対する暴力や虐待の問題でしたか。(〇はいくつでも)

暴力や虐待の対象についてたずねたところ、子ども、高齢者、配偶者が多くなっています。前回調査と比較すると、子どもに対する暴力や虐待が大きく増加しています。

図表 7 暴力・虐待の対象について（全体、前回調査との比較／複数回答）



## (6) 人権に関する法律についての認知度

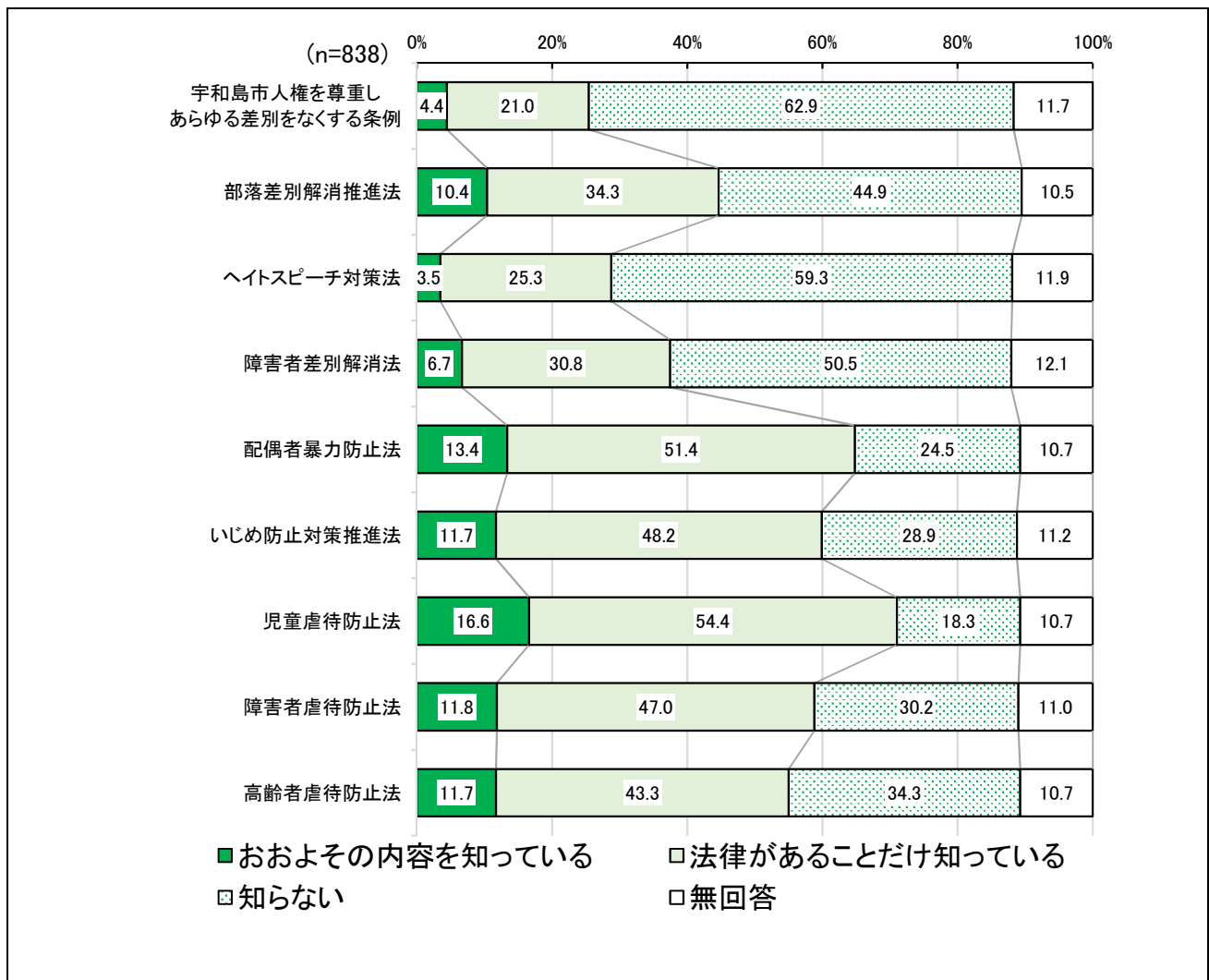
### 問6 あなたは次の法律等を知っていますか。(〇は項目ごとに1つずつ)

人権に関する法律についての認知度をたずねたところ、「おおよその内容を知っている」、「法律があることだけ知っている」の割合はともに「児童虐待防止法」「配偶者暴力防止法(DV防止法)」などで多く、認知度は高くなっています。

一方、「ヘイトスピーチ対策法」の認知度が最も低く、今後の周知が必要な法律となっています。

前回調査と比較すると、いじめ防止対策推進法以外のすべての法律で、「おおよその内容を知っている」「法律があることだけ知っている」の割合が減少しています。

図表8 人権に関する法律についての認知度(全体)



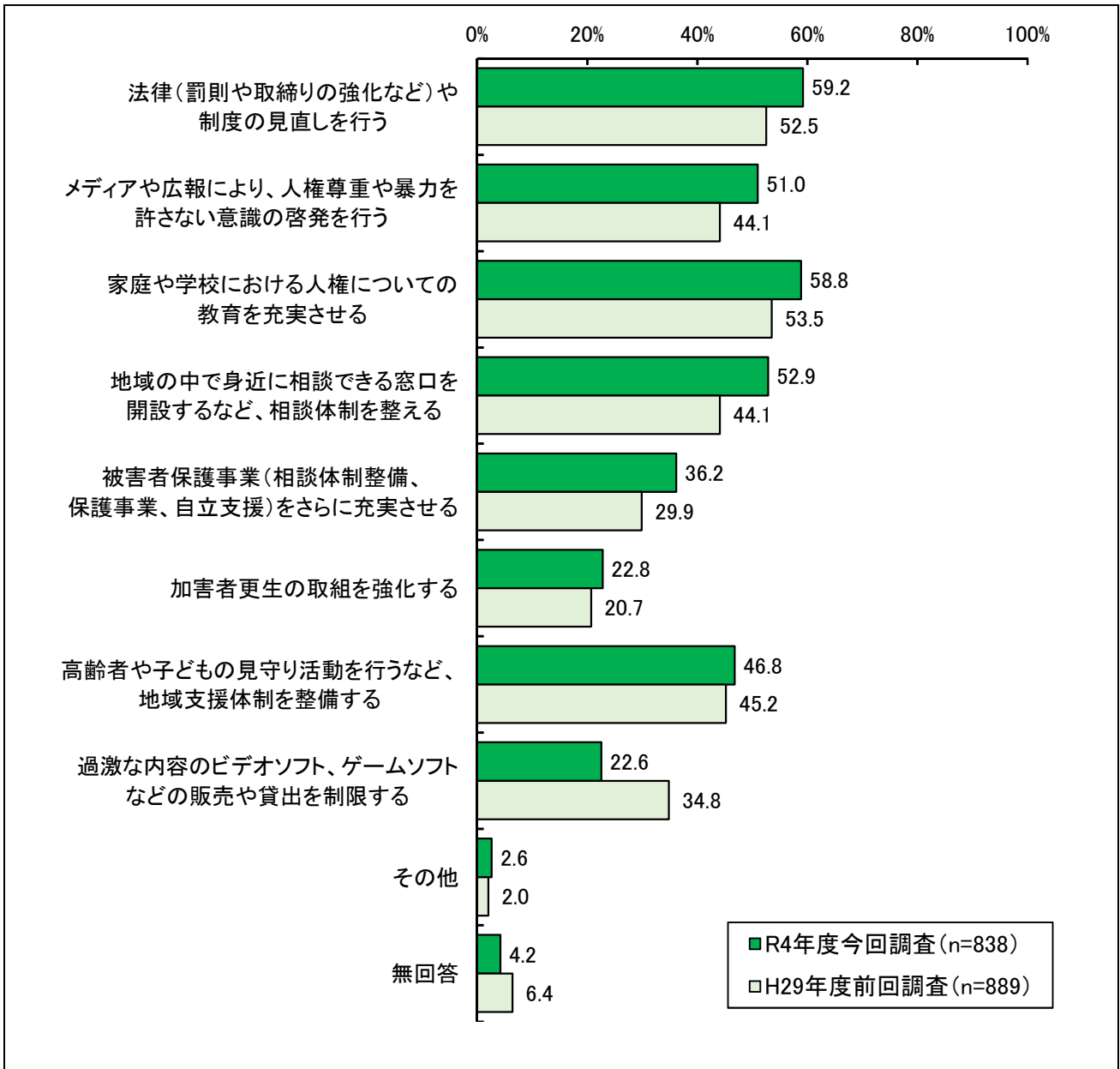
## (7) 暴力や虐待の問題に対して必要な取組

問7 あらゆる暴力や虐待の問題に対して、どのような取組が必要だと思いますか。  
(〇はいくつでも)

暴力や虐待の問題に対して必要な取組についてたずねたところ、「法律や制度の見直しを行う」(59.2%)が最も多く、次いで「家庭や学校における人権についての教育を充実させる」(58.8%)、「地域の中で身近に相談できる窓口を開設するなど、相談体制を整える」(52.9%)などとなっています。

前回調査と比較すると、法律の見直しや、家庭や学校での教育を重視する傾向は同様となっており、多くの取組が増加傾向にあります。特に、「地域の中で身近に相談できる窓口を開設するなど、相談体制を整える」が8.8ポイントと最も大きく増加しています。

図表9 暴力や虐待の問題に対して必要な取組（全体、前回調査との比較／複数回答）



## 2 女性の人権問題について

### (1) 女性の人権問題に関する考え

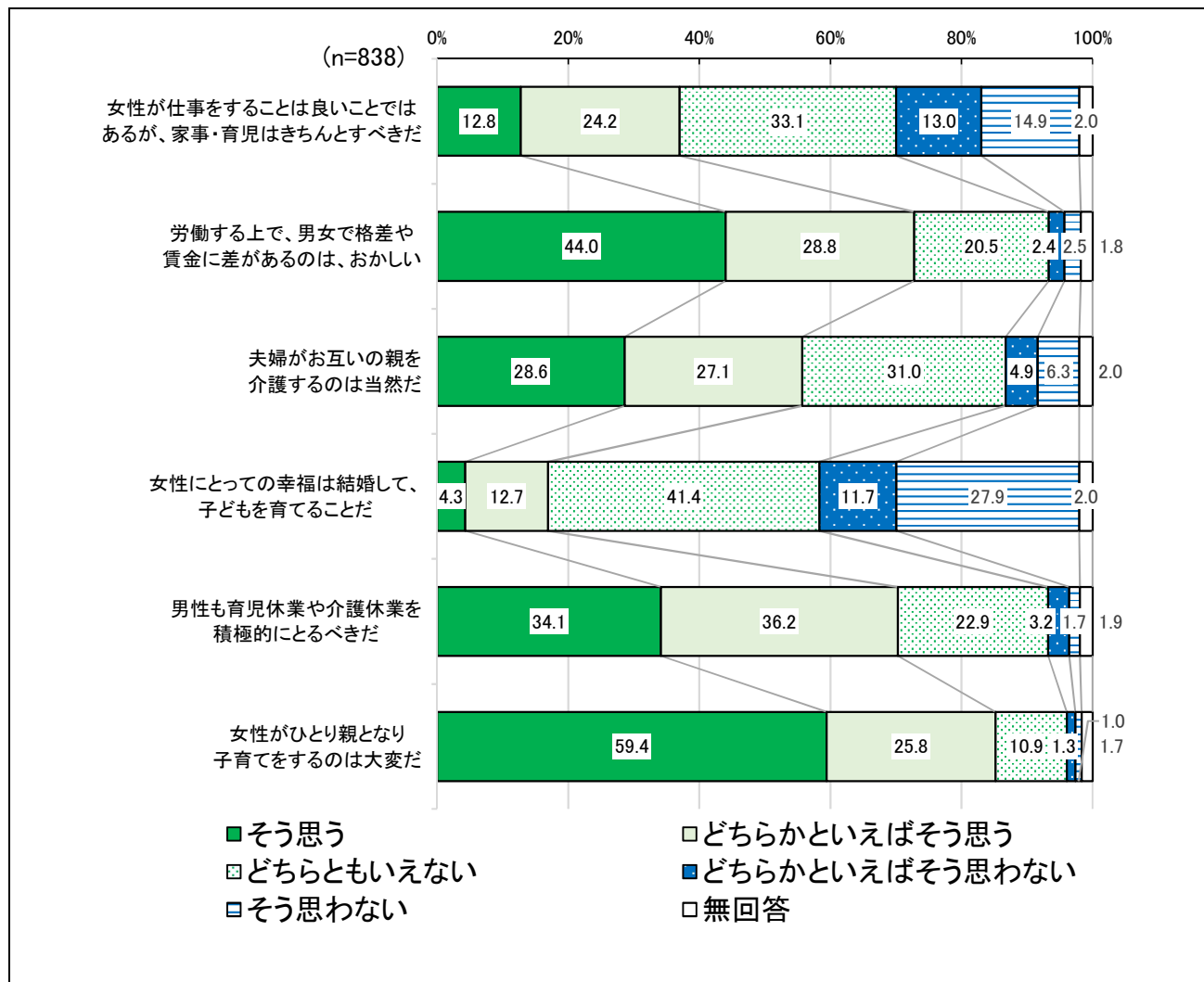
問8 次のような意見について、あなたはどのように思いますか。

(○は項目ごとに1つずつ)

女性の人権問題に関する考えについてたずねたところ、「女性がひとり親となり子育てするのは大変だ」については約6割が「そう思う」と回答しており、「どちらかといえばそう思う」の割合を合わせた“そう思う”（以下同じ）では、約9割の人が肯定的な意見を持っています。

また、「労働する上で、男女で格差や賃金に差があるのは、おかしい」（“そう思う”72.8%）、「男性も育児休業や介護休業を積極的にとるべきだ」（“そう思う”70.3%）との考えが多くなっています。

図表 10 女性の人権問題に関する考え（全体）



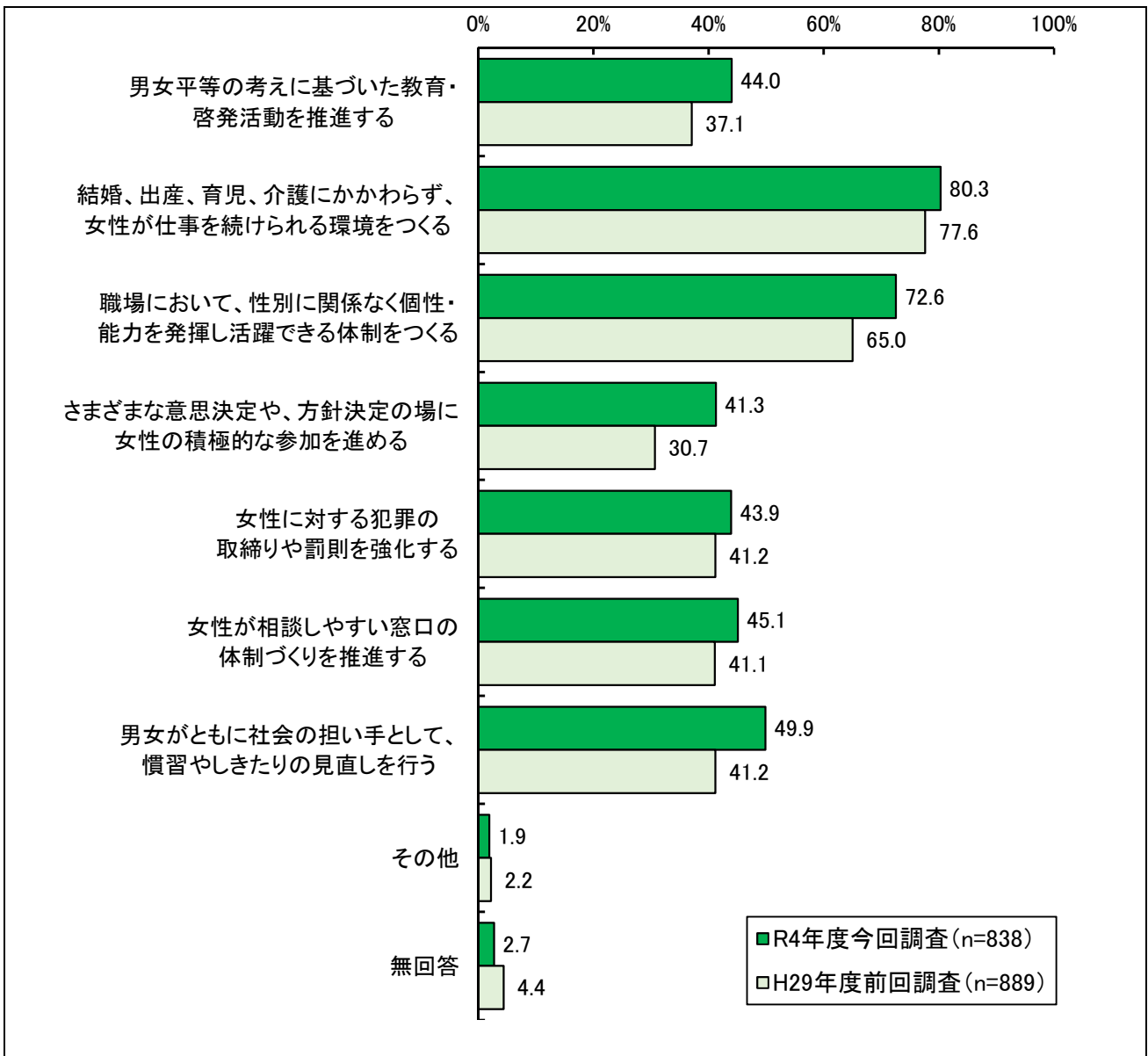
## (2) 男女平等の社会になるために重要なこと

**問9 あなたは、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために、特に重要と思うのは何ですか。(〇はいくつでも)**

男女平等の社会になるために重要なことをたずねたところ、「結婚、出産、育児、介護にかかわらず、女性が仕事を続けられる環境をつくる」(80.3%)が最も多く、次いで「職場において、性別に関係なく個性・能力を発揮し活躍できる体制をつくる」(72.6%)、「男女がともに社会の担い手として、慣習やしきたりの見直しを行う」(49.9%)「女性が相談しやすい窓口の体制づくりを推進する」(45.1%)などとなっています。

前回調査と比べると、「さまざまな意思決定や、方針決定の場に女性の積極的な参加を進める」が10.6ポイントと最も増加しています。

図表 11 男女平等の社会になるために重要なこと (全体、前回調査との比較/複数回答)





### 3 子どもの人権問題について

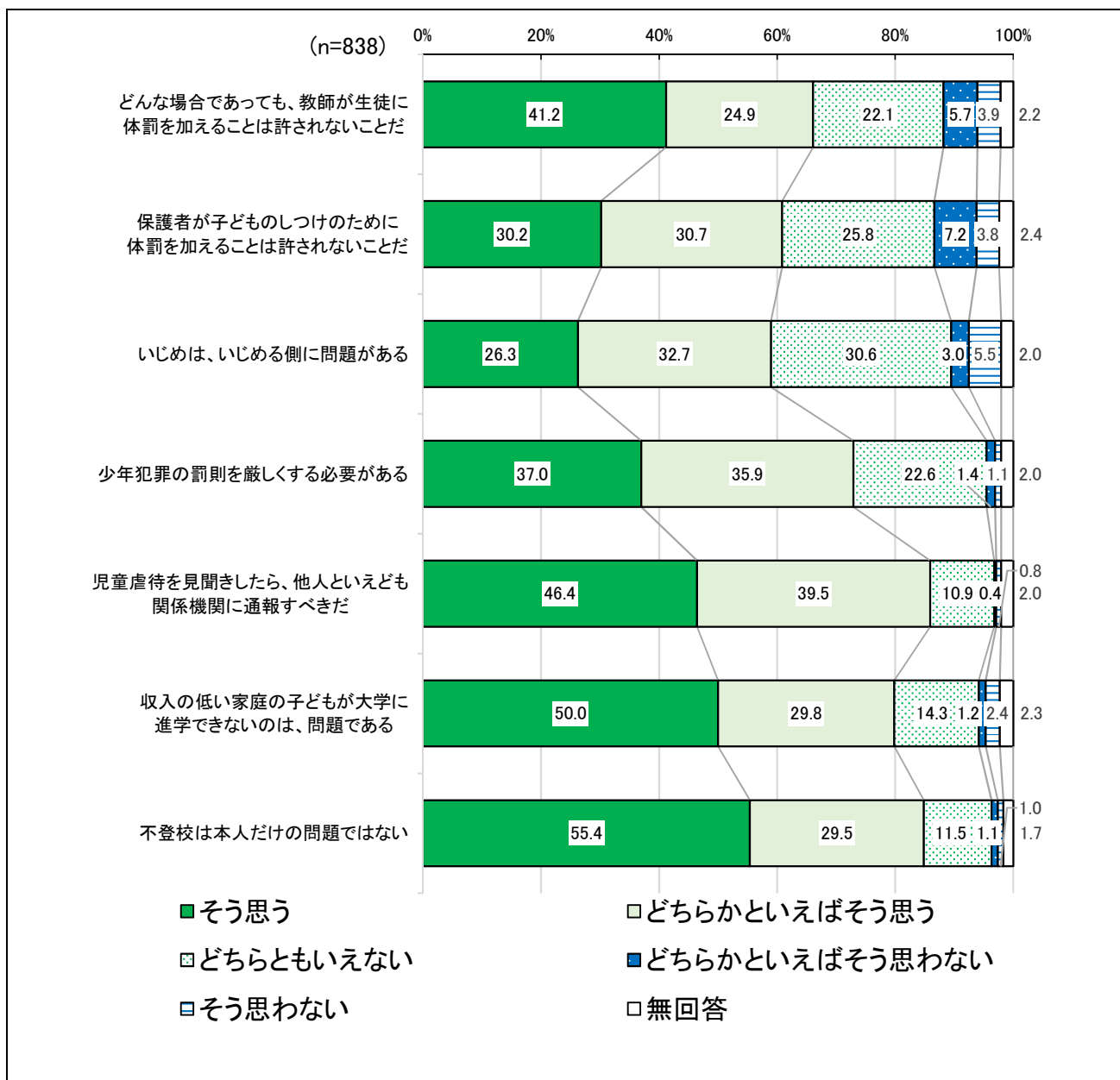
#### (1) 子どもの人権問題に関する考え

問 10 次のような意見について、あなたはどのように思いますか。

(○は項目ごとに1つずつ)

子どもの人権問題に関する考えについてたずねたところ、「収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは、問題である」は「そう思う」が5割、「不登校は本人だけの問題ではない」は「そう思う」が過半数を超えています。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”をみると、「児童虐待を見聞きしたら、他人といえども関係機関に通報すべきだ」が85.9%と最も多くなっています。

図表 12 子どもの人権問題に関する考え（全体）



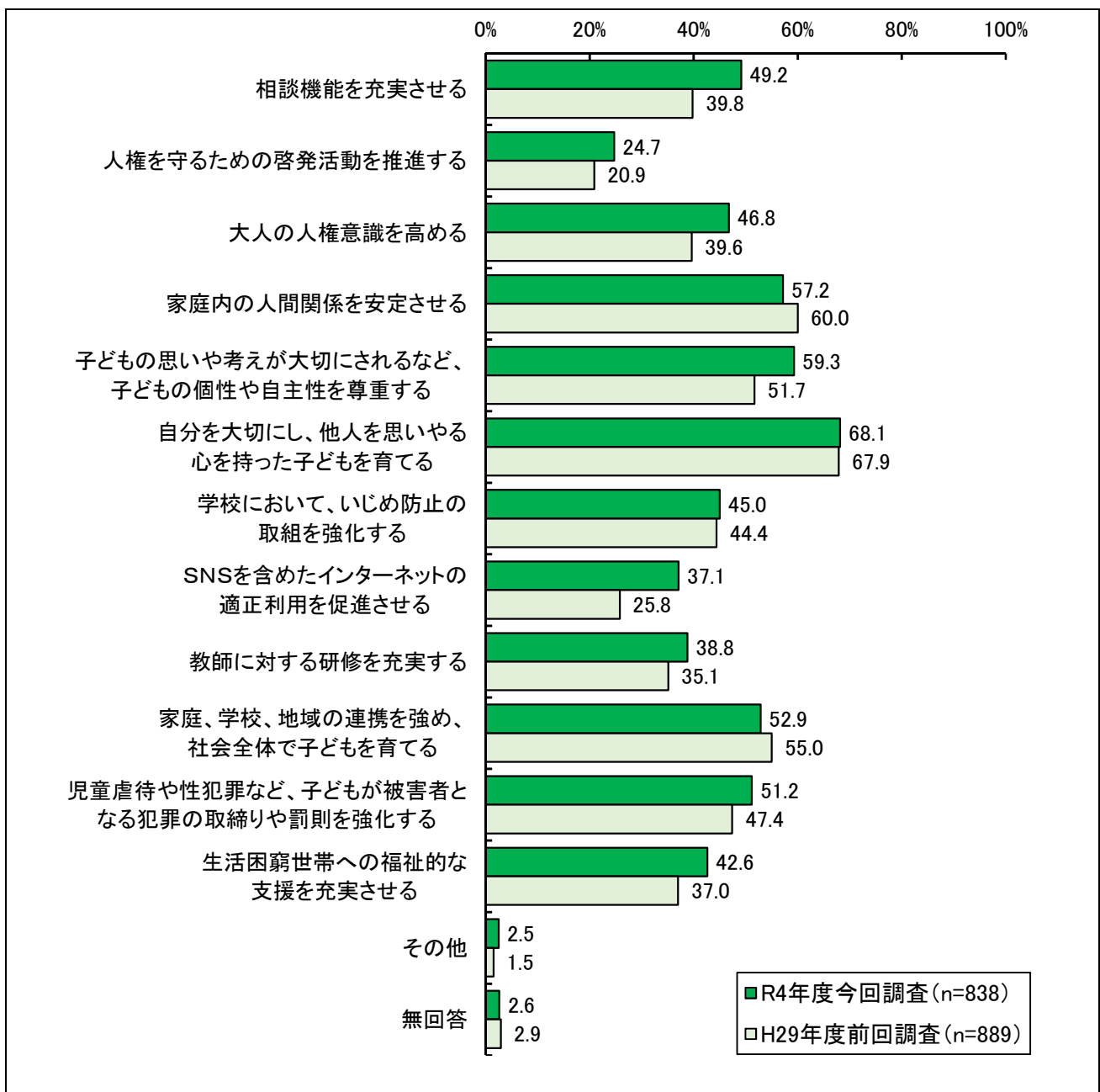
## (2) 子どもの人権が守られるために必要なこと

問 11 子どもの人権が守られるために、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

子どもの人権が守られるために、必要なことについてたずねたところ、「自分を大切にし、他人を思いやる心を持った子どもを育てる」(68.1%)が最も多くなっています。次いで「子どもの思いや考えが大切にされるなど、子どもの個性や自主性を尊重する」(59.3%)、「家庭内の人間関係を安定させる」(57.2%)などとなっています。

前回調査と比べると、「相談機能を充実させる」が他よりも多く増加していますが、概ね同様な傾向を示しています。

図表 13 子どもの人権が守られるために必要なこと (全体、前回調査との比較/複数回答)



## 4 高齢者の人権問題について

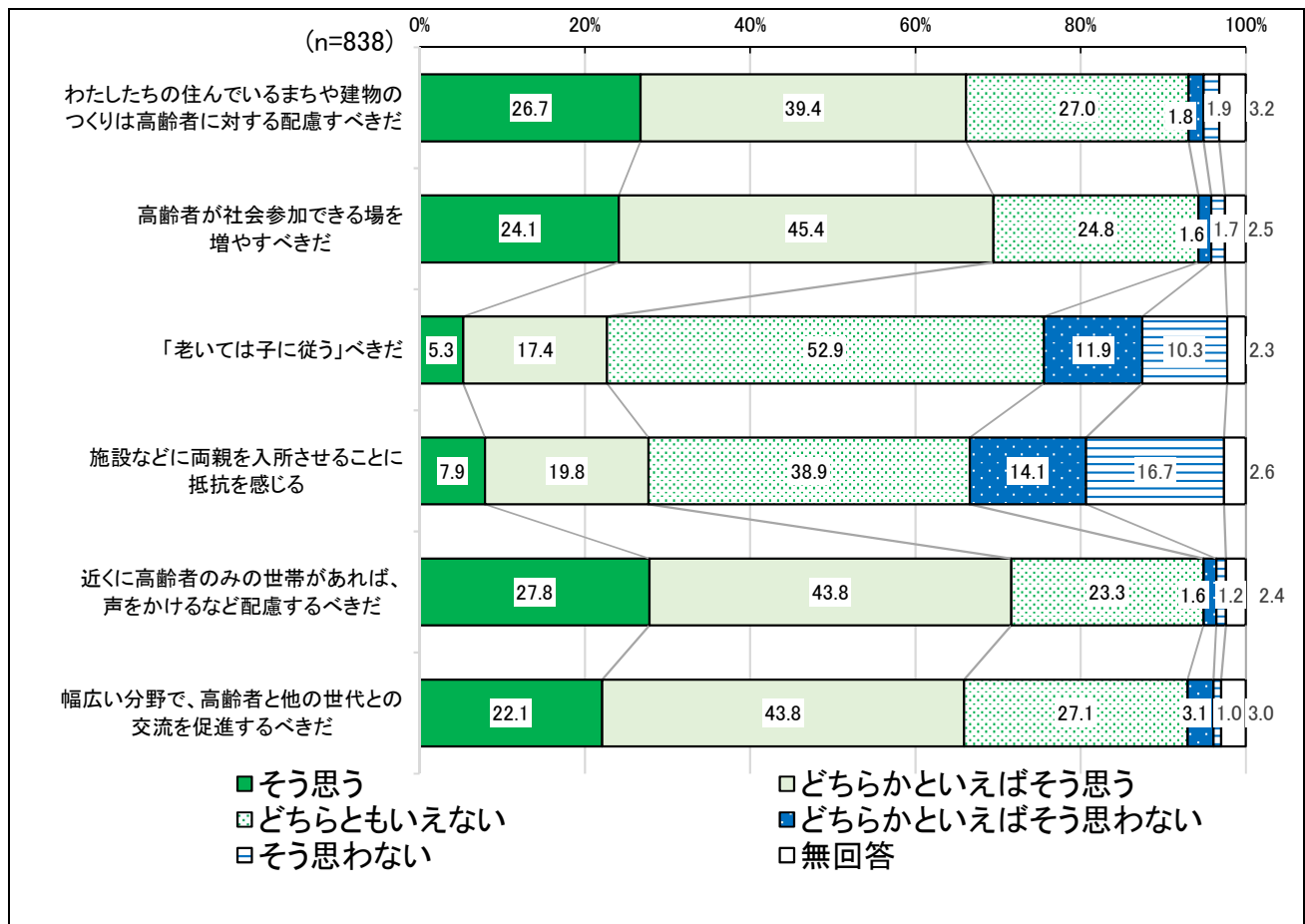
### (1) 高齢者の人権問題に関する考え

問 12 次のような意見について、あなたはどのように思いますか。

(○は項目ごとに1つずつ)

高齢者の人権問題に関する考えについてたずねたところ、「近くに高齢者のみの世帯があれば、声をかけるなど配慮すべきだ」の「そう思う」割合が 27.8%と最も多く、次いで、「わたしたちの住んでいるまちや建物のつくりは高齢者に対する配慮すべきだ」(26.7%)が多くなっています。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”を見ると、「近くに高齢者のみの世帯があれば、声をかけるなど配慮すべきだ」の割合が 71.6%を占め、最も多くなっています。また、「高齢者が社会参加できる場を増やすべきだ」と考える人も多くなっています。

図表 14 高齢者の人権問題に関する考え (全体)



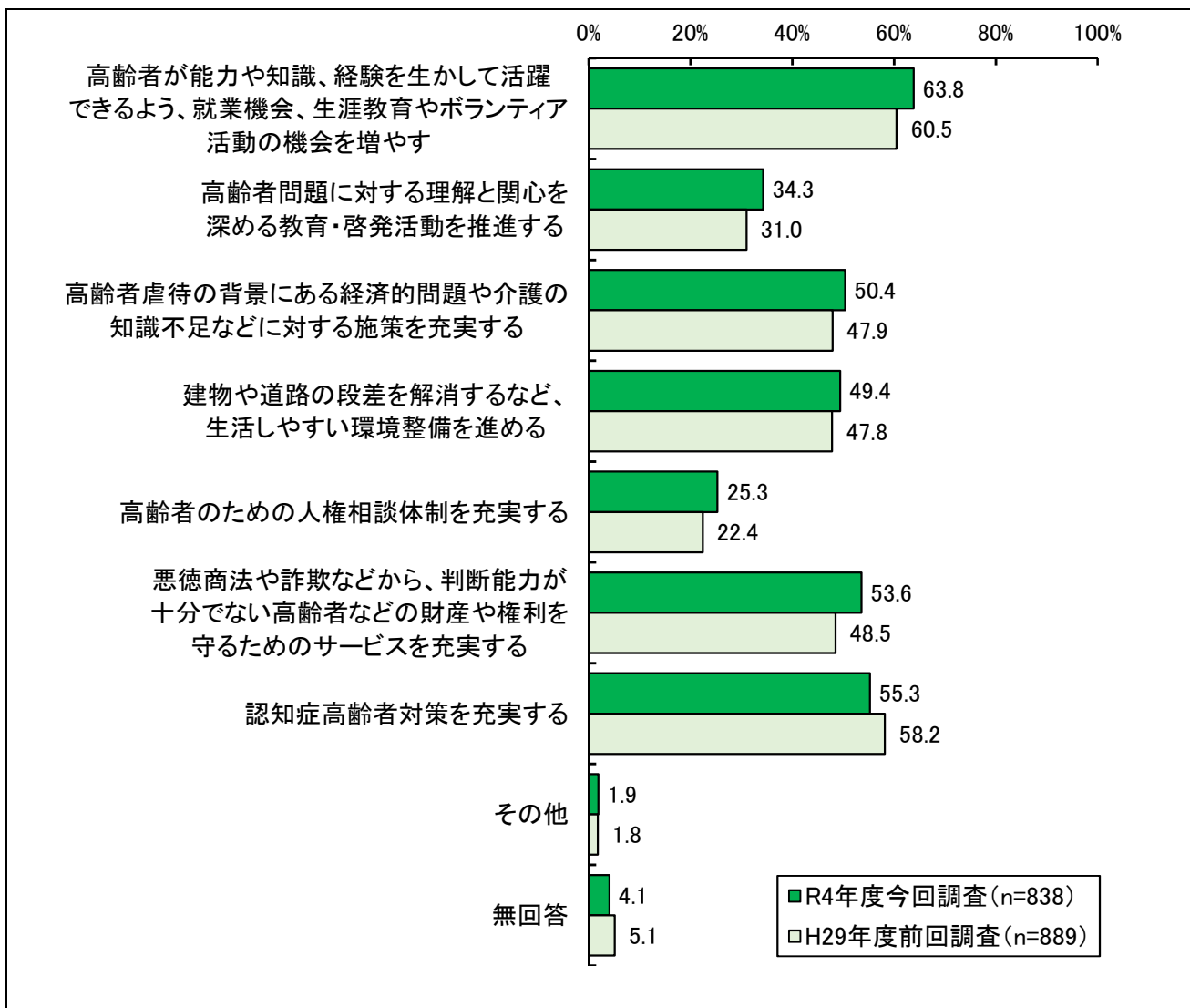
## (2) 高齢者の人権が守られるために必要なこと

**問 13 高齢者の人権が守られるために、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)**

高齢者の人権が守られるために必要なことについてたずねたところ、「高齢者が能力や知識、経験を生かして活躍できるよう、就業機会、生涯教育やボランティア活動の機会を増やす」が63.8%と最も多く、次いで「認知症高齢者対策を充実する」(55.3%)、「悪徳商法や詐欺などから、判断能力が十分でない高齢者などの財産や権利を守るためのサービスを充実する」(53.6%)などとなっています。

前回調査と比べると、若干の増減がありますが、概ね同様な傾向となっています。

**図表 15 高齢者の人権が守られるために必要なこと (全体、前回調査との比較/複数回答)**



## 5 障がいのある人の人権問題について

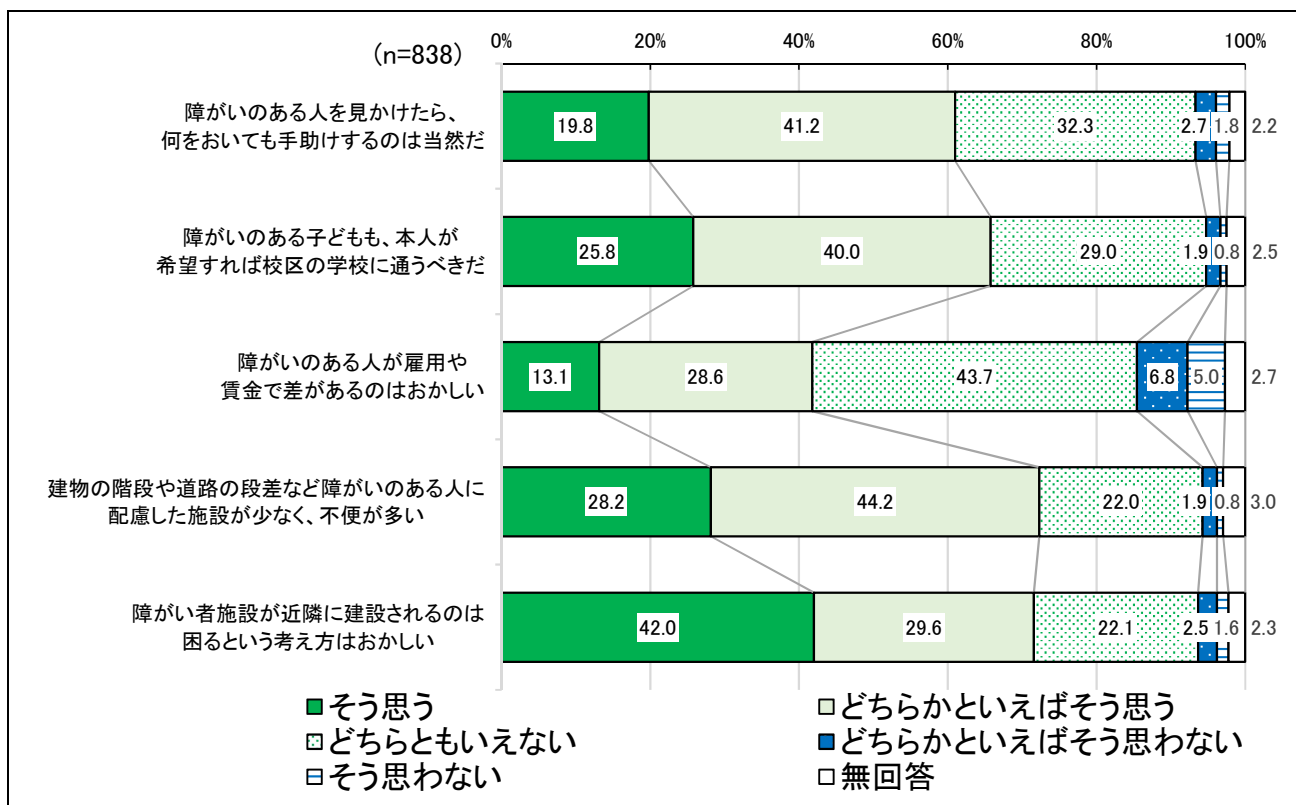
### (1) 障がいのある人の人権問題に関する考え

問 14 次のような意見について、あなたはどのように思いますか。

(○は項目ごとに1つずつ)

障がいのある人の人権問題に関する考えについてたずねたところ、「障がい者施設が近隣に建設されるのは困るという考え方はおかしい」について「そう思う」人の割合が42.0%と最も多く、次いで「建物の階段や道路の段差など障がいのある人に配慮した施設が少なく、不便が多い」(28.2%)となっています。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”では「建物の階段や道路の段差など障がいのある人に配慮した施設が少なく、不便が多い」が72.4%と最も多くなっています。

図表 16 障がいのある人の人権問題に関する考え (全体)



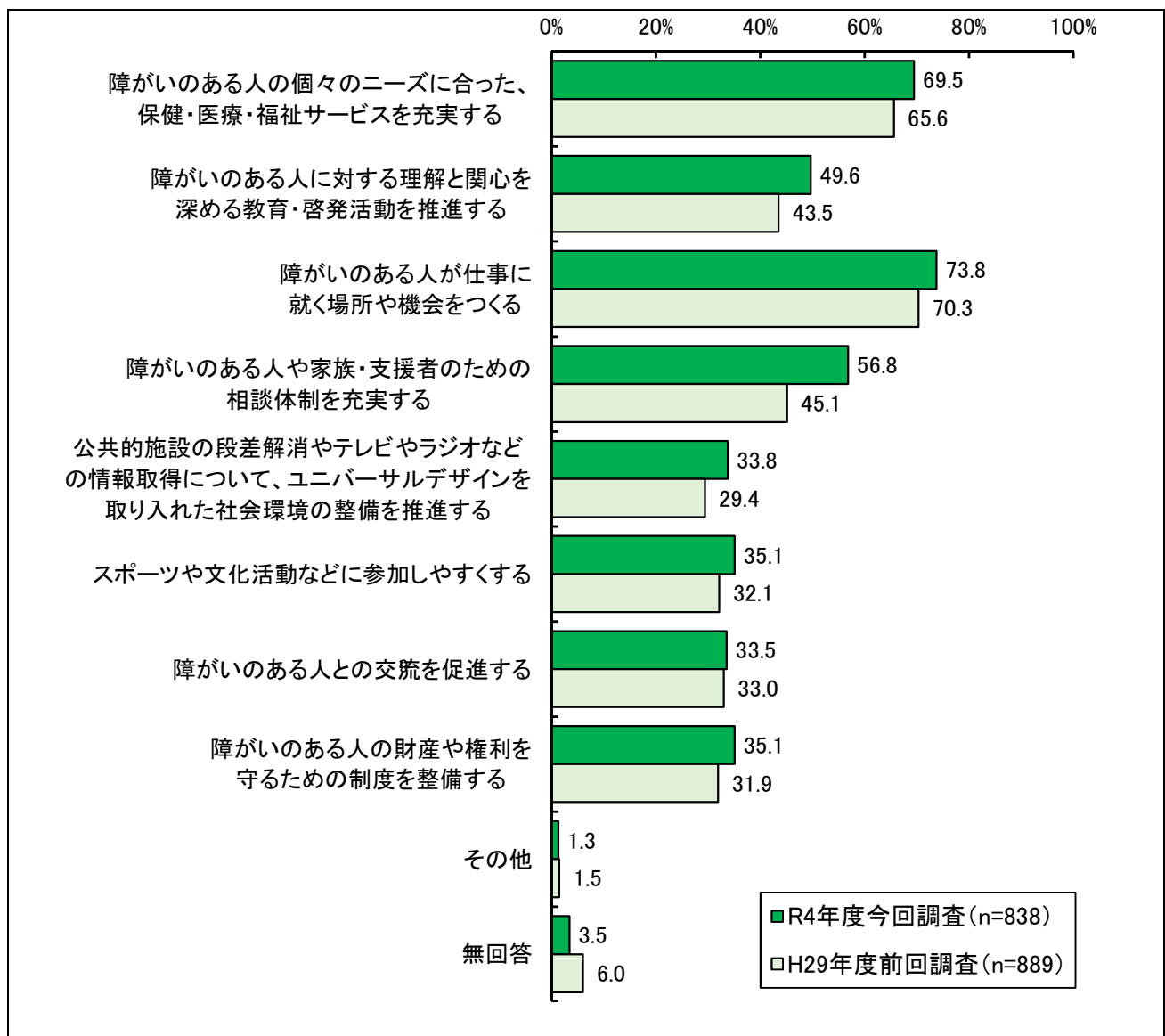
## (2) 障がいのある人の人権が守られるために必要なこと

**問 15 障がいのある人の人権が守られるために、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)**

障がいのある人の人権が守られるために必要なことをたずねたところ、「障がいのある人が仕事に就く場所や機会をつくる」(73.8%)が最も多く、次いで「障がいのある人の個々のニーズに合った、保健・医療・福祉サービスを充実する」(69.5%)となっています。

前回調査と比べると、概ね同様の傾向となっていますが、「障がいのある人や家族・支援者のための相談体制を充実する」が11.7ポイントと最も増加しており、相談体制の充実が求められています。

**図表 17 障がいのある人の人権が守られるために必要なこと(全体、前回調査との比較/複数回答)**



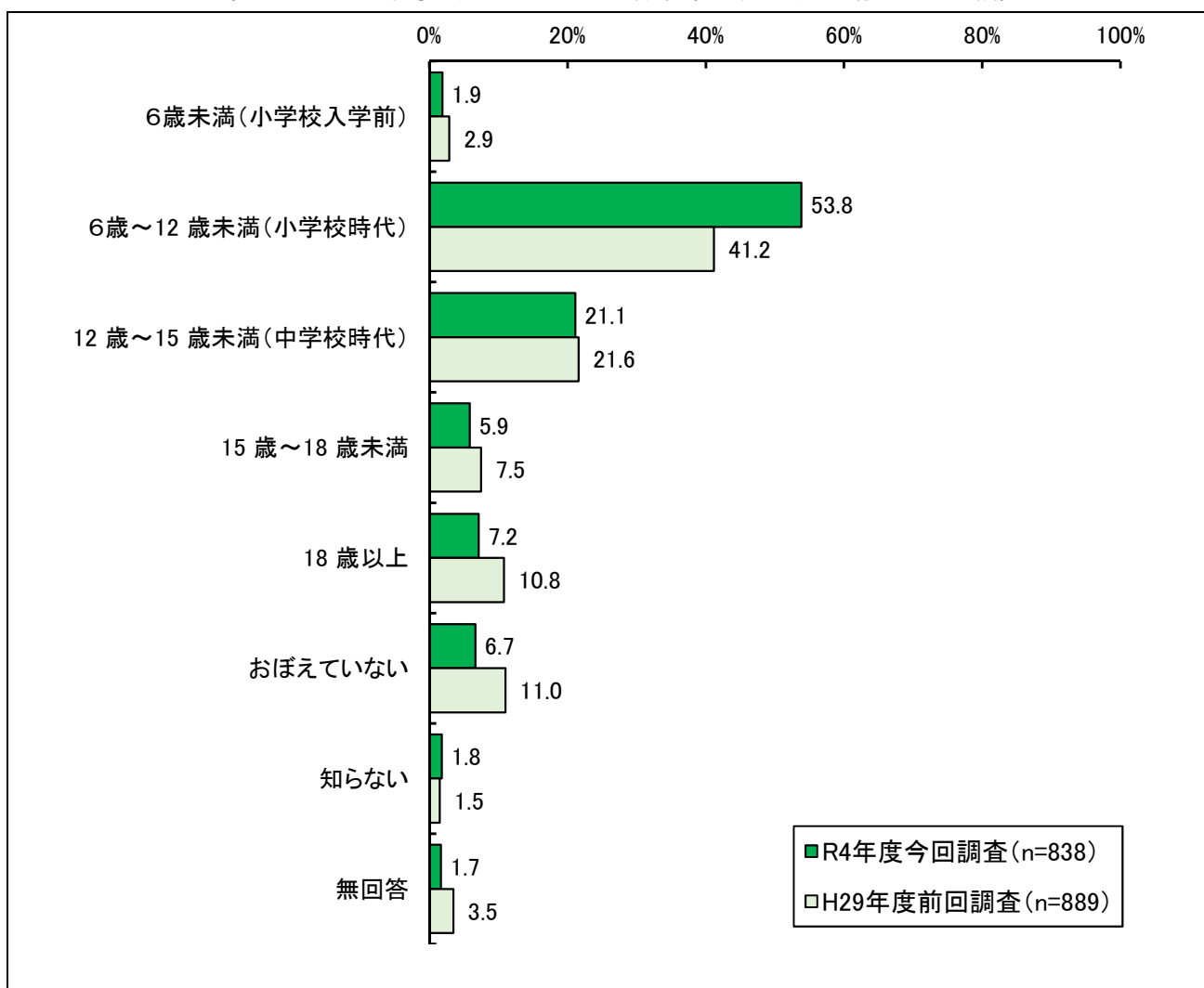
## 6 部落差別に関する人権問題について

### (1) 部落差別の認識について

問 16 あなたは部落差別に関する人権問題について、初めて知ったのはいつごろですか。(〇は1つ)

同和問題を初めて知った時期についてたずねたところ、「6歳～12歳未満」(53.8%)が過半数を超えて最も多くなっています。小学生頃に初めて知った人が多く、概ね前回調査と同様の結果となっています。

図表 18 同和問題を初めて知った時期 (全体、前回調査との比較)

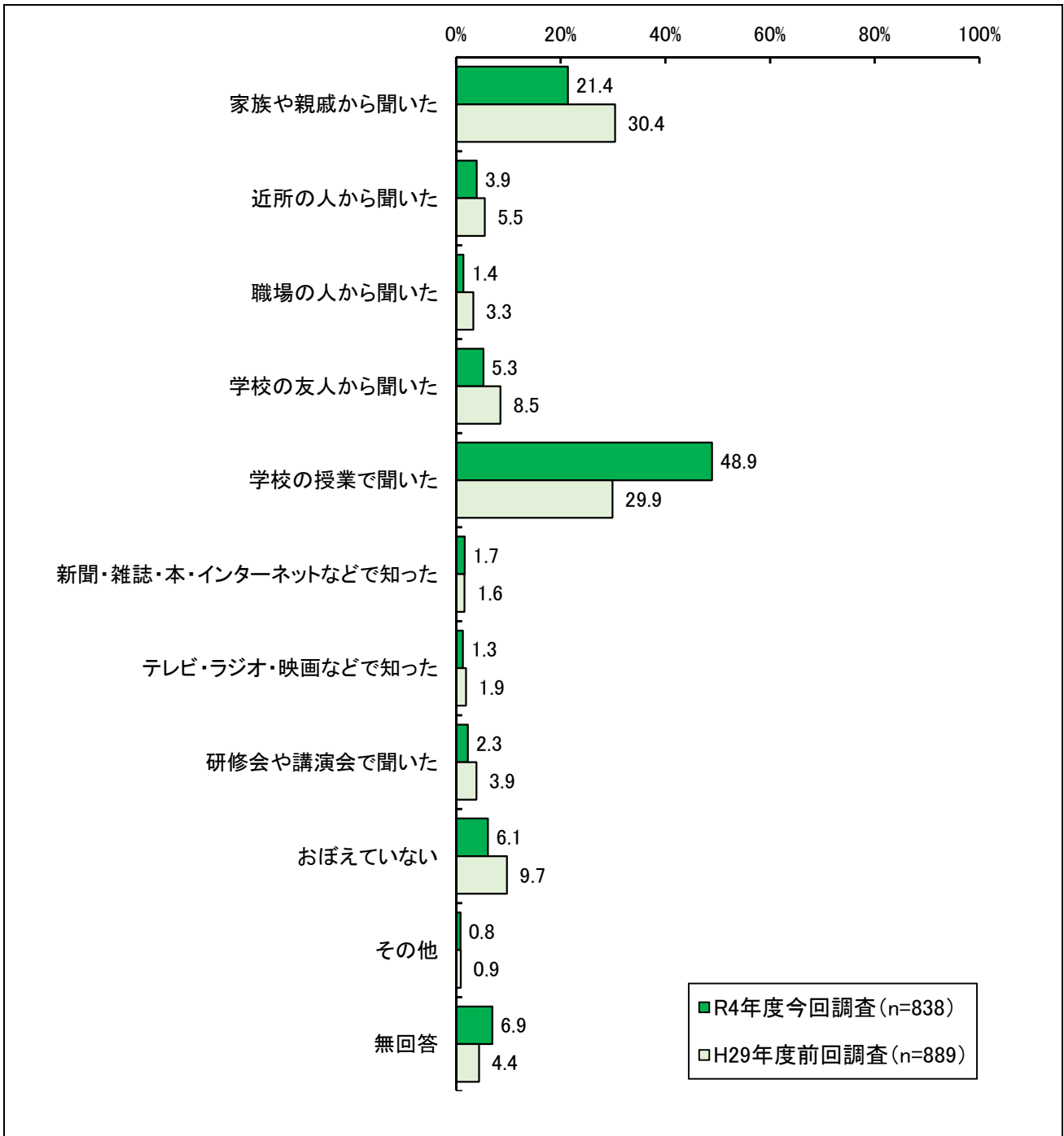


**問 17 それをどのようにして知りましたか。(〇は1つ)**

部落差別に関する人権問題を知ったきっかけについてたずねたところ、「学校の授業で聞いた」(48.9%)が最も多く、次いで「家族や親戚から聞いた」(21.4%)となっており、両方合わせて7割を超え、それらが主なきっかけとなっています。

前回調査では、「家族や親戚から聞いた」(30.4%)、「学校の授業で聞いた」(29.9%)の順となっており、順位の結果に変動がみられ、「学校の授業で聞いた」が大きく増加しています。

**図表 19 部落差別に関する人権問題を知ったきっかけについて (全体、前回調査との比較)**





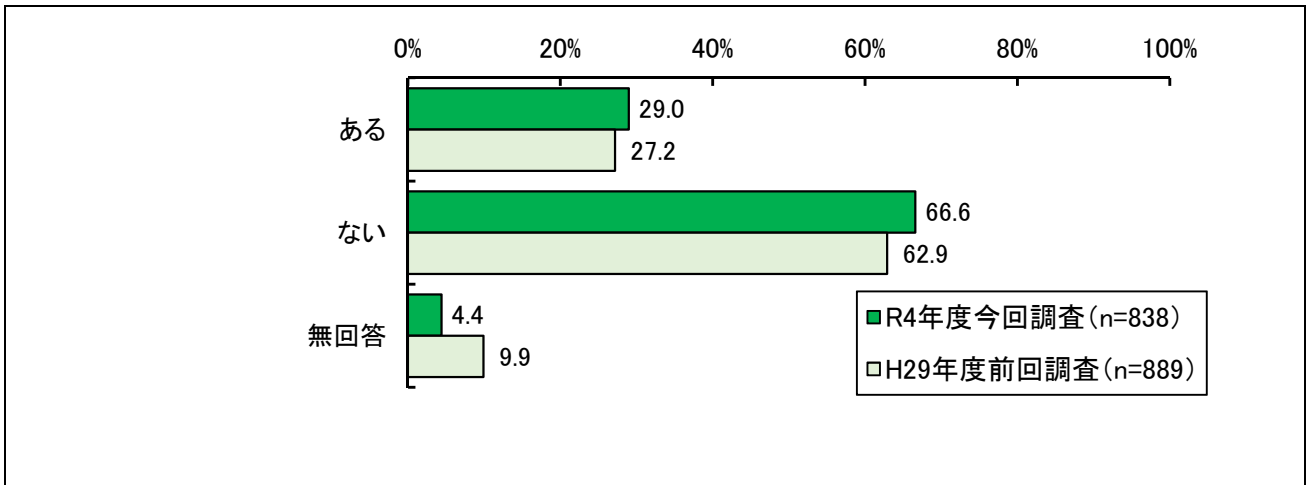
## (2) 部落差別に関する言動を見聞きした経験について

問 18 あなたは部落差別を受ける可能性のある人たちに対する差別発言や就職時や職場での不公平な扱い、身元調査、インターネットを利用した差別書き込みなど差別的な言動を見聞きしことがありますか。(〇は1つ)

部落差別に関する人権問題を見聞きしたことがあるかについてたずねたところ、6割以上の人が「ない」と回答しています。

前回調査と比べると、見聞きしたことが「ある」と「ない」がともにやや増加傾向となっています。

図表 20 部落差別に関する言動を見聞きした経験があるかについて（全体、前回調査との比較）



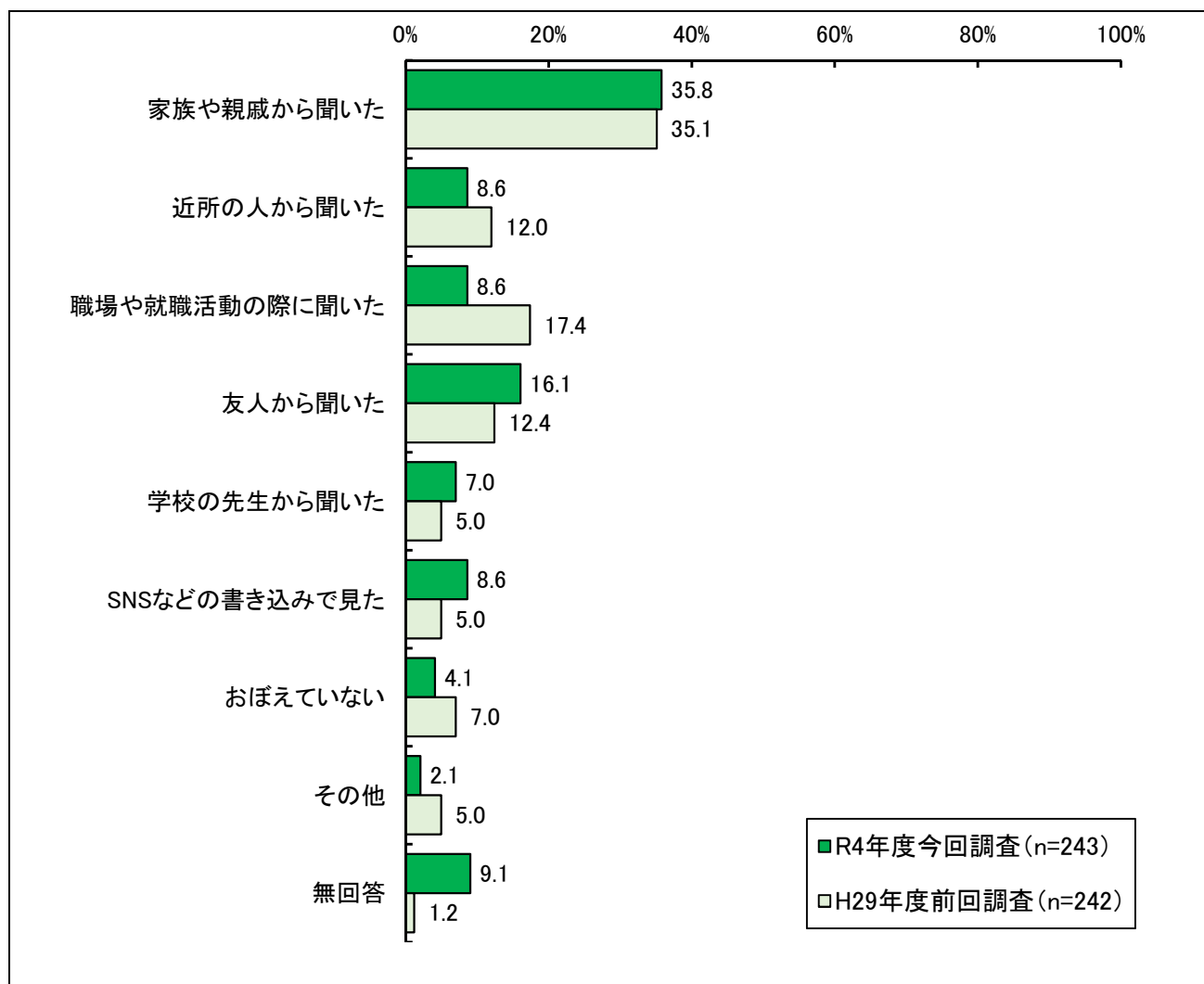
問18で「1 ある」と答えた方にお聞きします。

問18-1 どのような場所、状況で差別的な言動を見聞きしましたか。(〇は1つ)

部落差別に関する人権問題を見聞きした経験が「ある」と回答した方に対し、見聞きした場所、状況についてたずねたところ、「家族や親戚から聞いた」(35.8%)が最も多く、次いで「友人から聞いた」(16.1%)が多くなっています。

前回調査と比べると、「職場や就職活動の際に聞いた」(8.6%)が大きく減少しています。

図表 21 部落差別に関する言動を見聞きした場所・状況について(全体、前回調査との比較)



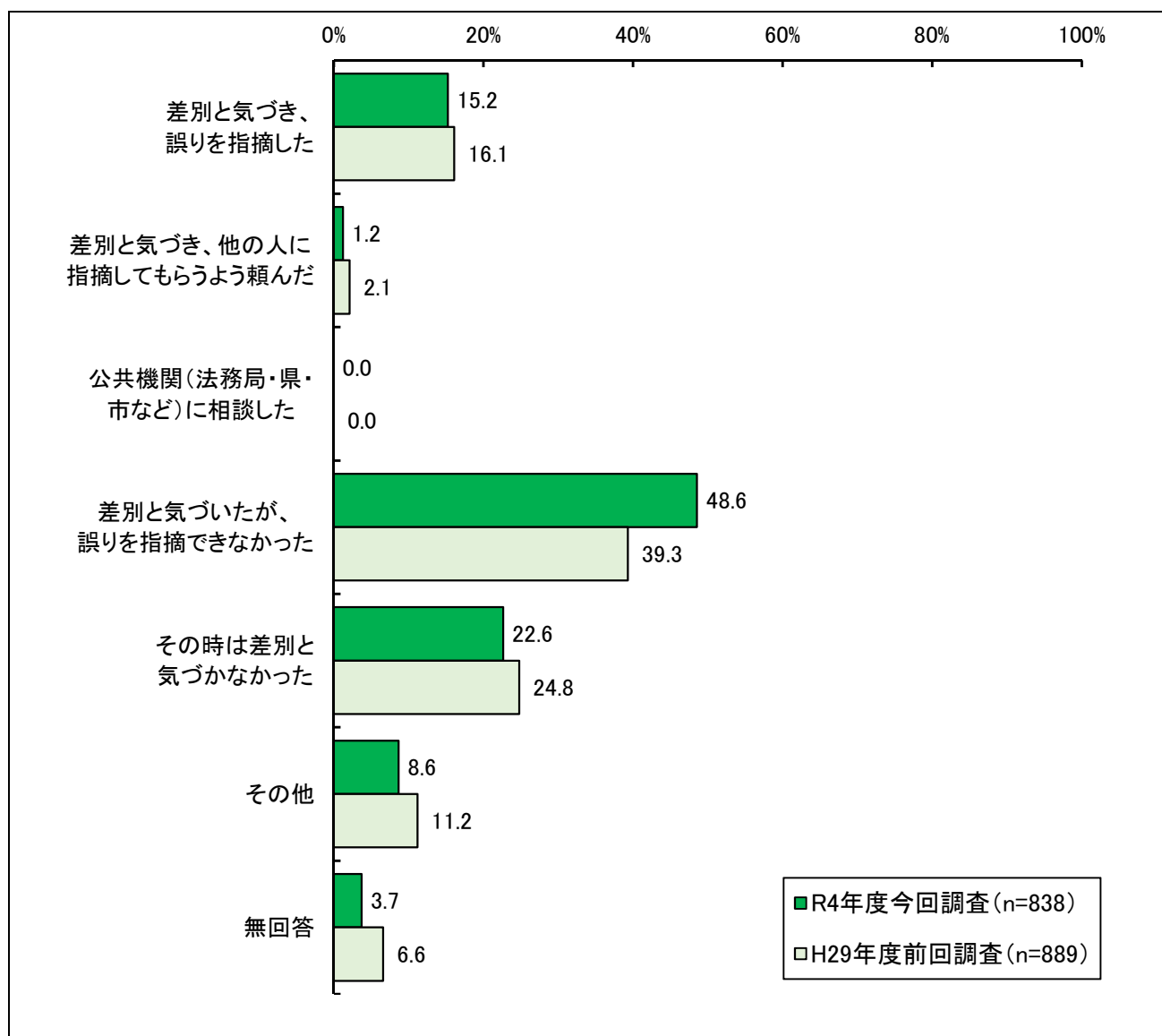
問 18で「1 ある」と答えた方にお聞きします。

問 18-2 その時あなたは、どうしましたか。(〇は1つ)

部落差別に関する人権問題を見聞きした経験が「ある」と回答した方に対し、その時の対応についてたずねたところ、「差別と気づいたが、誤りを指摘できなかった」(48.6%)が最も多く、次いで「その時は差別と気づかなかった」(22.6%)となっています。一方、「差別と気づき、誤りを指摘した」は15.2%と2割未満となっています。

前回調査と比べると、「差別と気づいたが、誤りを指摘できなかった」人は増加傾向がみられますが、「その時は差別と気づかなかった」人は減少傾向にあります。

図表 22 部落差別に関する言動を見聞きしたときの対応について(全体、前回調査との比較)



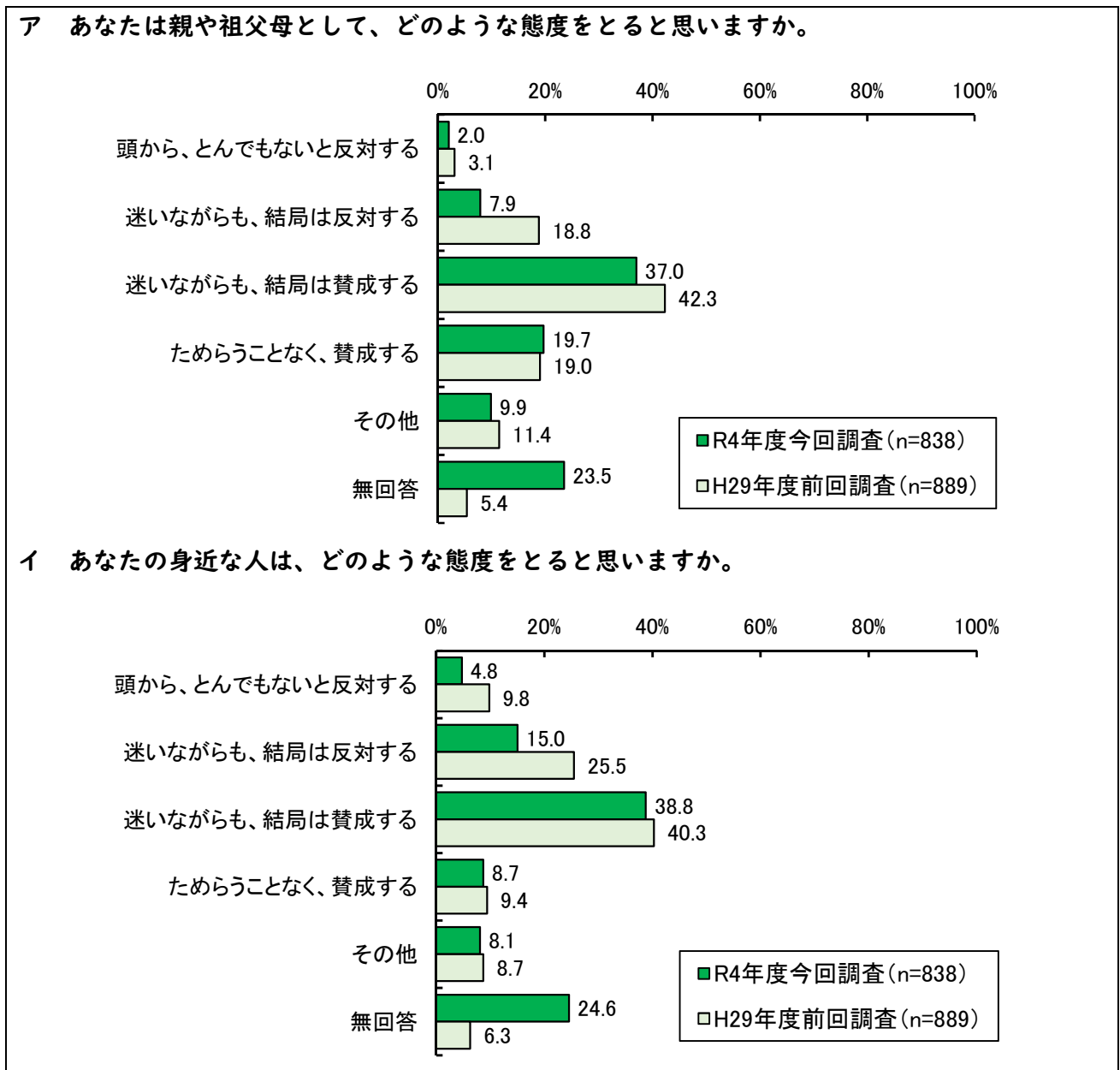
### (3) 同和問題による結婚差別について

問 19 仮に、あなたのお子さんやお孫さん（お子さんやお孫さんがいない場合は、いと仮定してお答えください）の結婚しようとする相手に同和問題による結婚差別が生じた場合についてお聞きします。（〇は項目ごとに1つずつ）

自分に子どもや孫がいた場合に、同和問題による結婚差別が生じた際の対応についてたずねたところ、「親や祖父母としての態度」「身近な人の態度」とともに「迷いながらも、結局は賛成する」が4割近くを占め、最も多くなっています。一方、「身近な人の態度」としては「迷いながらも、結局は反対する」の割合がやや多く、「ためらうことなく賛成する」がやや少なく、親としての態度と違いがみられます。

前回調査と比べると、“反対する”意見が大きく減少しています。

図表 23 同和問題による結婚差別が生じた際の行動（全体、前回調査との比較）

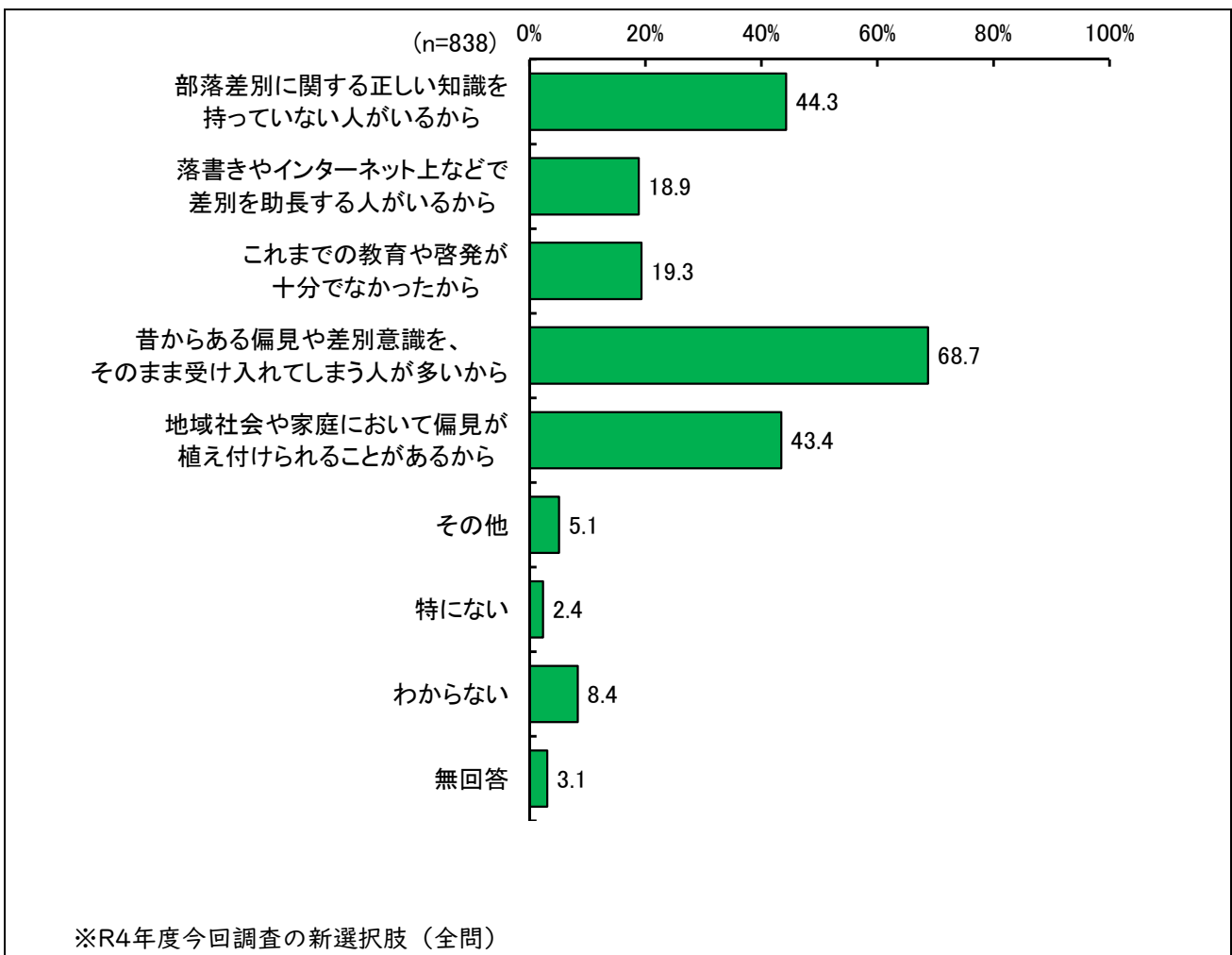


#### (4) 部落差別が残っている原因について

問20 現在でも部落差別が残っているのはどこに原因があると思いますか。  
(○はいくつでも)

部落差別が残っている原因に関する考えについてたずねたところ、「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」(68.7%)、「部落差別に関する正しい知識を持っていない人がいるから」(44.3%)、「地域社会や家庭において偏見が植え付けられることがあるから」(43.4%)などとなっています。

図表 24 部落差別が残っている原因 (全体)

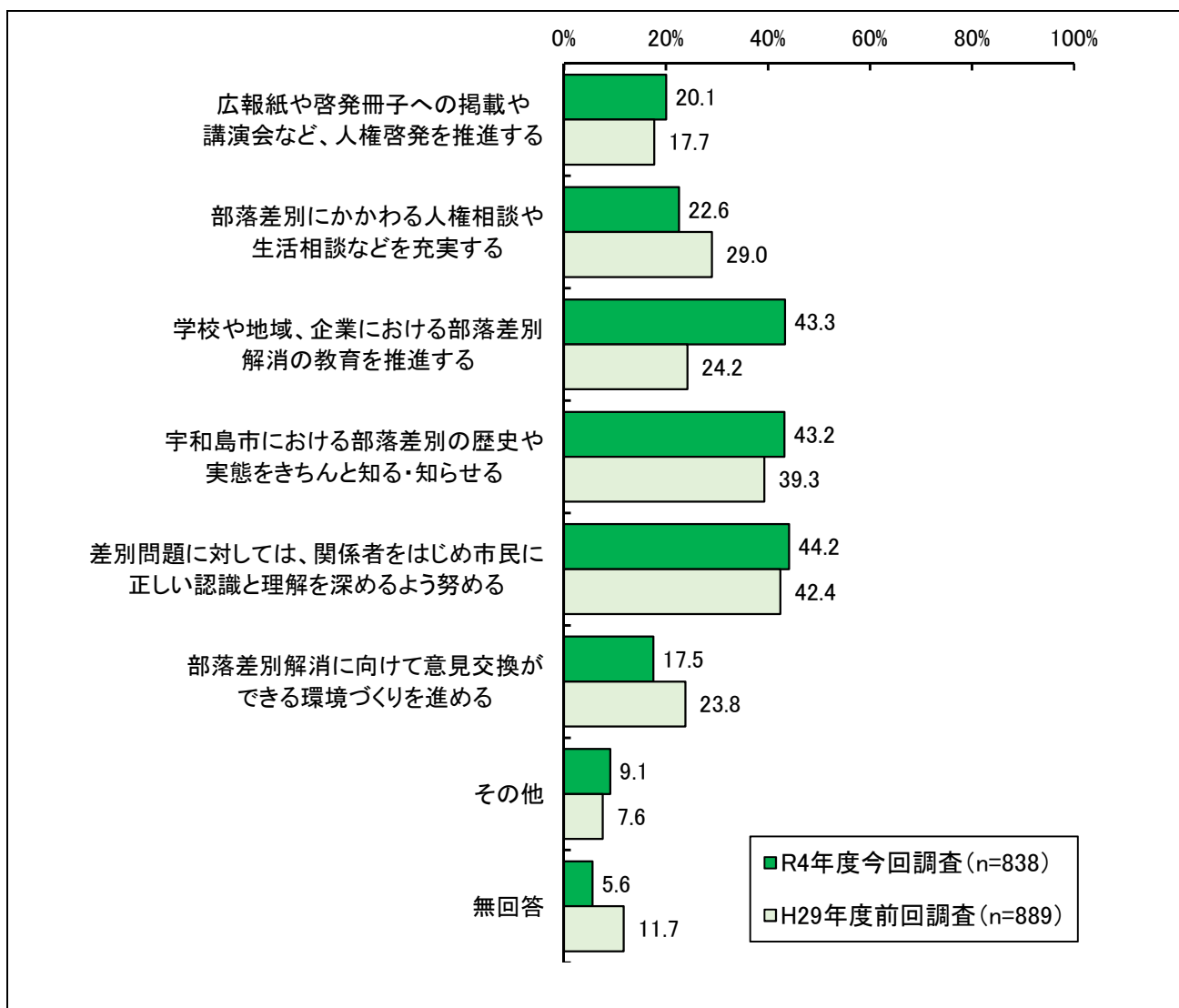


**問 21 あなたは、部落差別に関する人権問題を解決するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)**

部落差別に関する人権問題の解決に必要なことをたずねたところ、「差別問題に対しては、関係者をはじめ市民に正しい認識と理解を深めるよう努める」(44.2%)が最も多くなっています。次いで「学校や地域、企業における部落差別解消の教育を推進する」(43.3%)、「宇和島市における同和問題の歴史や実態をきちんと知る・知らせる」(43.2%)などとなっています。

前回調査と比べると、「学校や地域、企業における部落差別解消の教育を推進する」が19.1ポイントと最も増加しています。

**図表 25 同和問題の解決に必要なこと (全体/複数回答)**



## 7 外国人の人権問題について

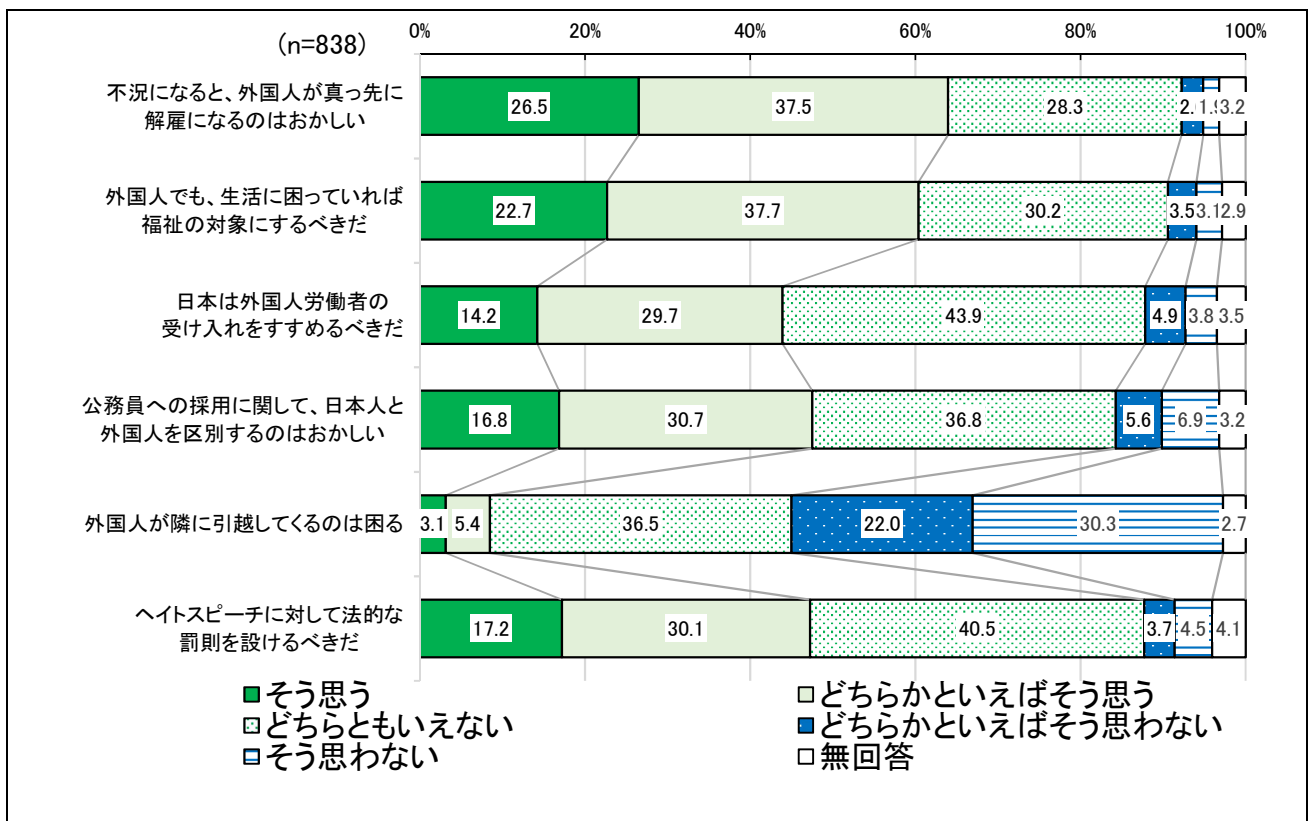
### (1) 外国人の人権問題に関する考え

問 22 次のような意見について、あなたはどのように思いますか。

(○は項目ごとに1つずつ)

外国人の人権問題に関する考えについてたずねたところ、「不況になると、外国人が真っ先に解雇になるのはおかしい」「外国人でも、生活に困っていれば福祉の対象にするべきだ」という意見に対して、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”人の割合が6割を超えています。

図表 26 外国人の人権問題に関する考え（全体）



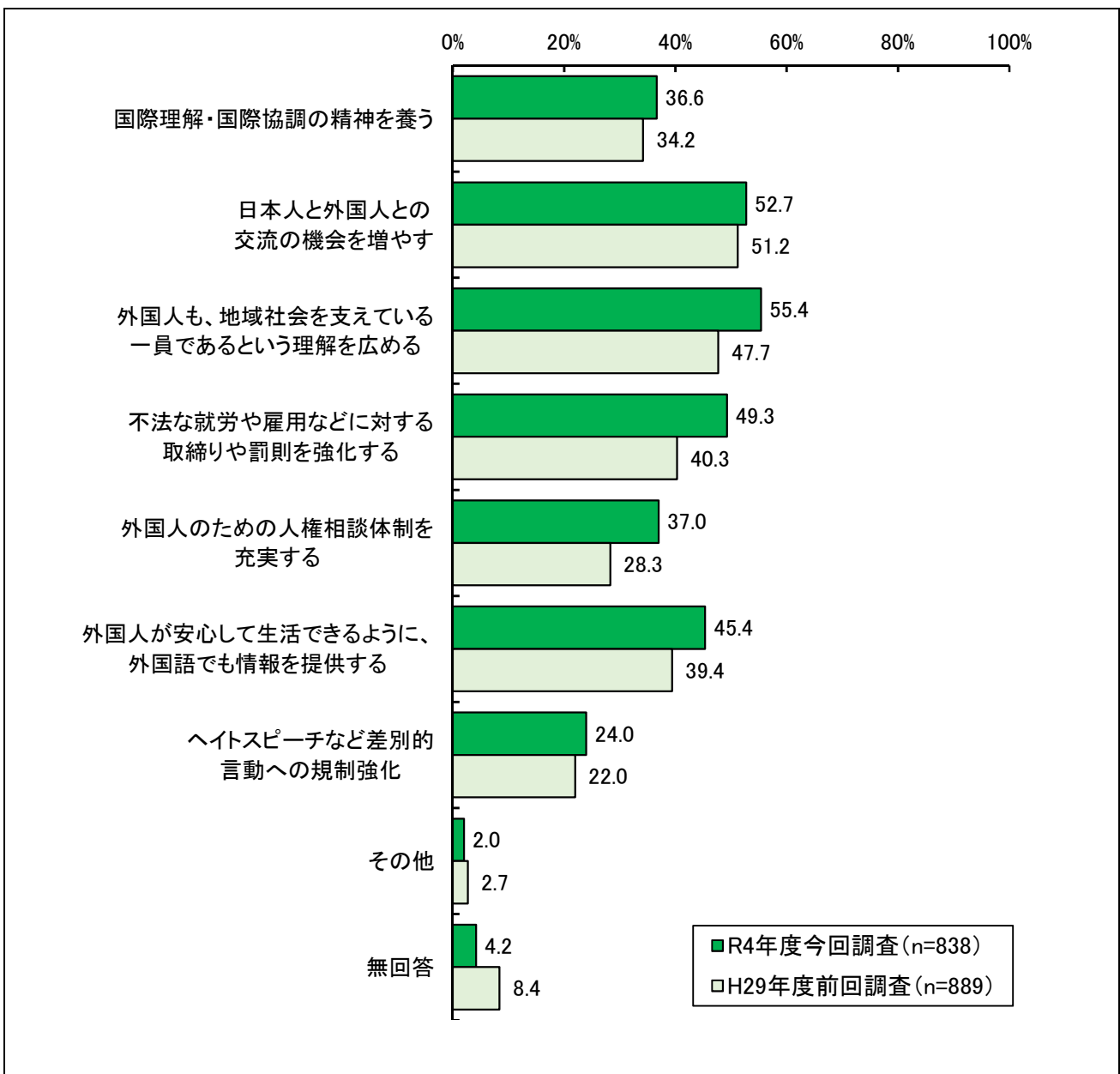
## (2) 外国人の人権が守られるために必要なこと

**問 23 外国人の人権が守られるために、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)**

外国人の人権が守られるために必要なことをたずねたところ、「外国人も、地域社会を支えている一員であるという理解を広める」(55.4%)が最も多く、次いで「日本人と外国人との交流の機会を増やす」(52.7%)、「不法な就労や雇用などに対する取締りや罰則を強化する」(49.3%)となっています。

前回調査と比べると、「不法な就労や雇用などに対する取締りや罰則を強化する」ことが必要だと考える人が9.0ポイントと最も増加しています。

図表 27 外国人の人権が守られるために必要なこと (全体、前回調査との比較/複数回答)





## 8 感染症等（HIV、ハンセン病など）の人権問題について

### (1) 感染症患者など（HIV、ハンセン病など）の人権問題に関する考え

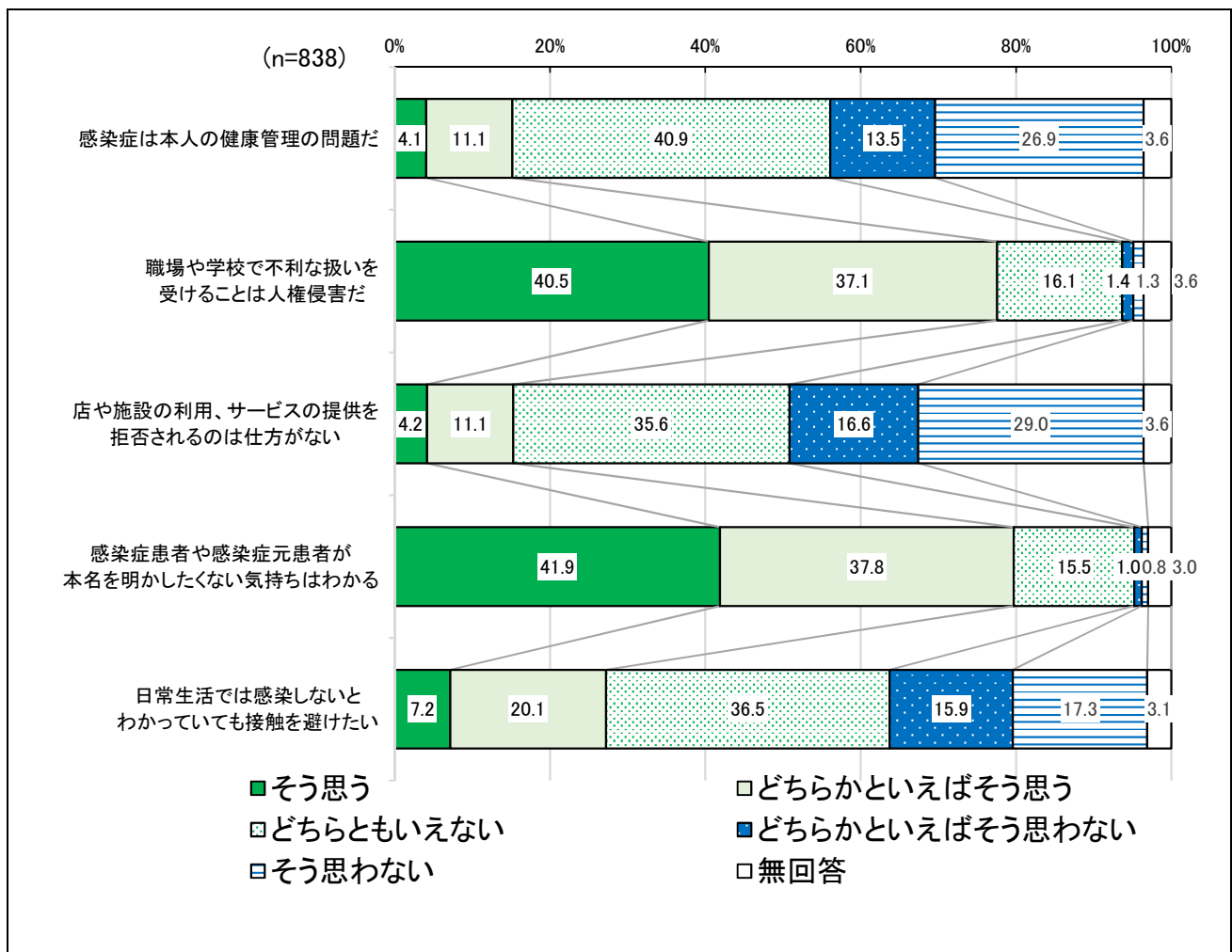
問 24 次のような意見について、あなたはどのように思いますか。

(○は項目ごとに1つずつ)

感染症患者などの人権問題に関する考えについてたずねたところ、「職場や学校で不利な扱いを受けることは人権侵害だ」「感染症患者や感染症元患者が本名を明かしたくない気持ちはわかる」という意見について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」といった肯定的な意見が多くなっています。

また、「店や施設の利用、サービスの提供を拒否されるのは仕方がない」「感染症は本人の健康管理の問題だ」という意見については「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」といった意見がやや多い傾向がみられます。

図表 28 感染症患者など（HIV、ハンセン病など）の人権問題に関する考え（全体）



## (2) 感染症患者などの人権が守られるために必要なこと

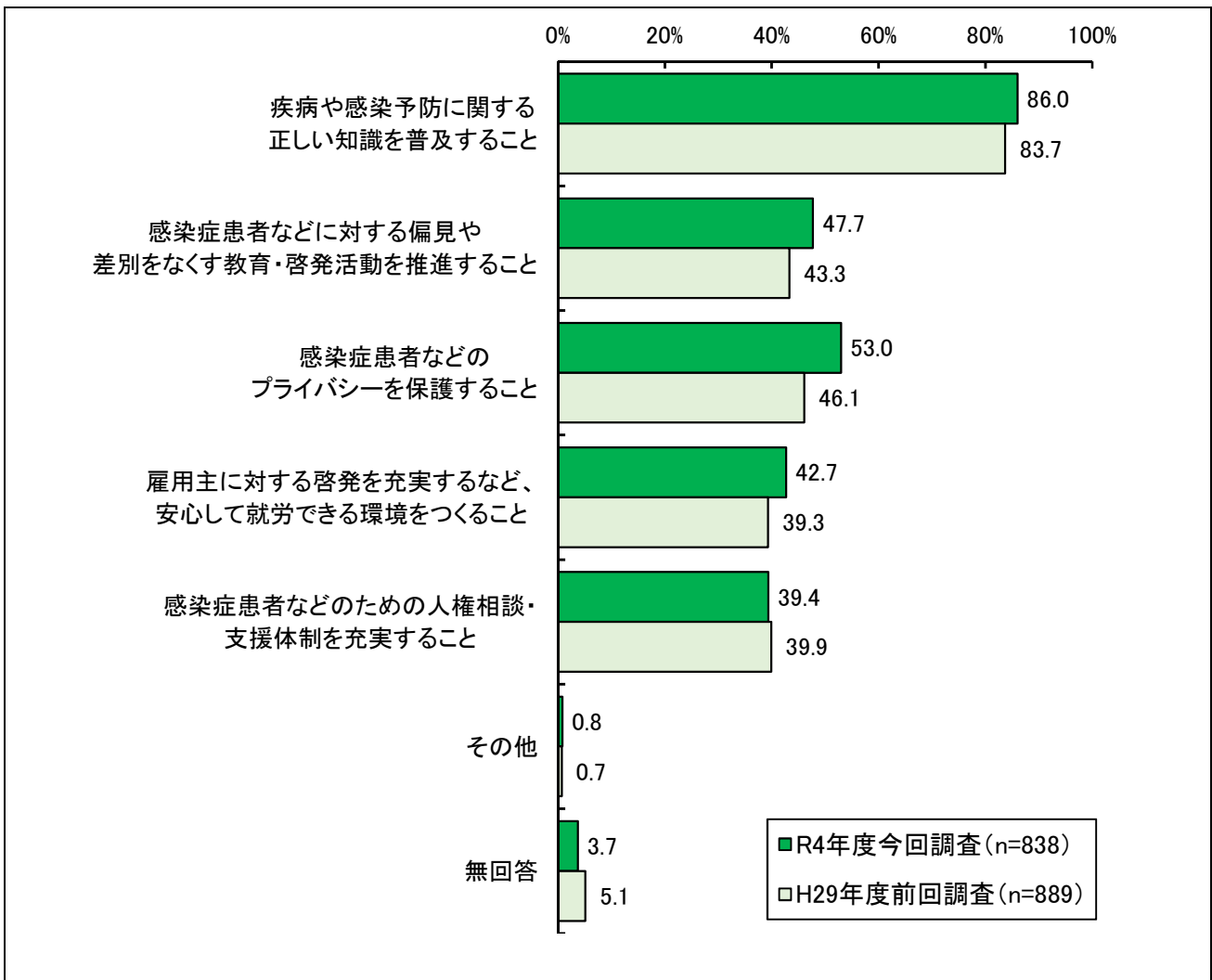
**問 25 感染症患者などの人権が守られるために、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)**

感染症患者などの人権が守られるために必要なことをたずねたところ、「疾病や感染予防に関する正しい知識を普及する」が 86.0%と最も多く、大半の人が感染症に関する正しい情報が必要だと考えています。

次いで、「感染症患者などのプライバシーを保護する」(53.0%)、「感染症患者などに対する偏見や差別をなくす教育・啓発活動を推進する」(47.7%)などとなっています。

前回調査と比べると、概ね同様の傾向となっていますが、感染症患者のプライバシーを重視する意見がやや増加傾向にあります。

図表 29 感染症患者などの人権が守られるために必要なこと (全体、前回調査との比較/複数回答)



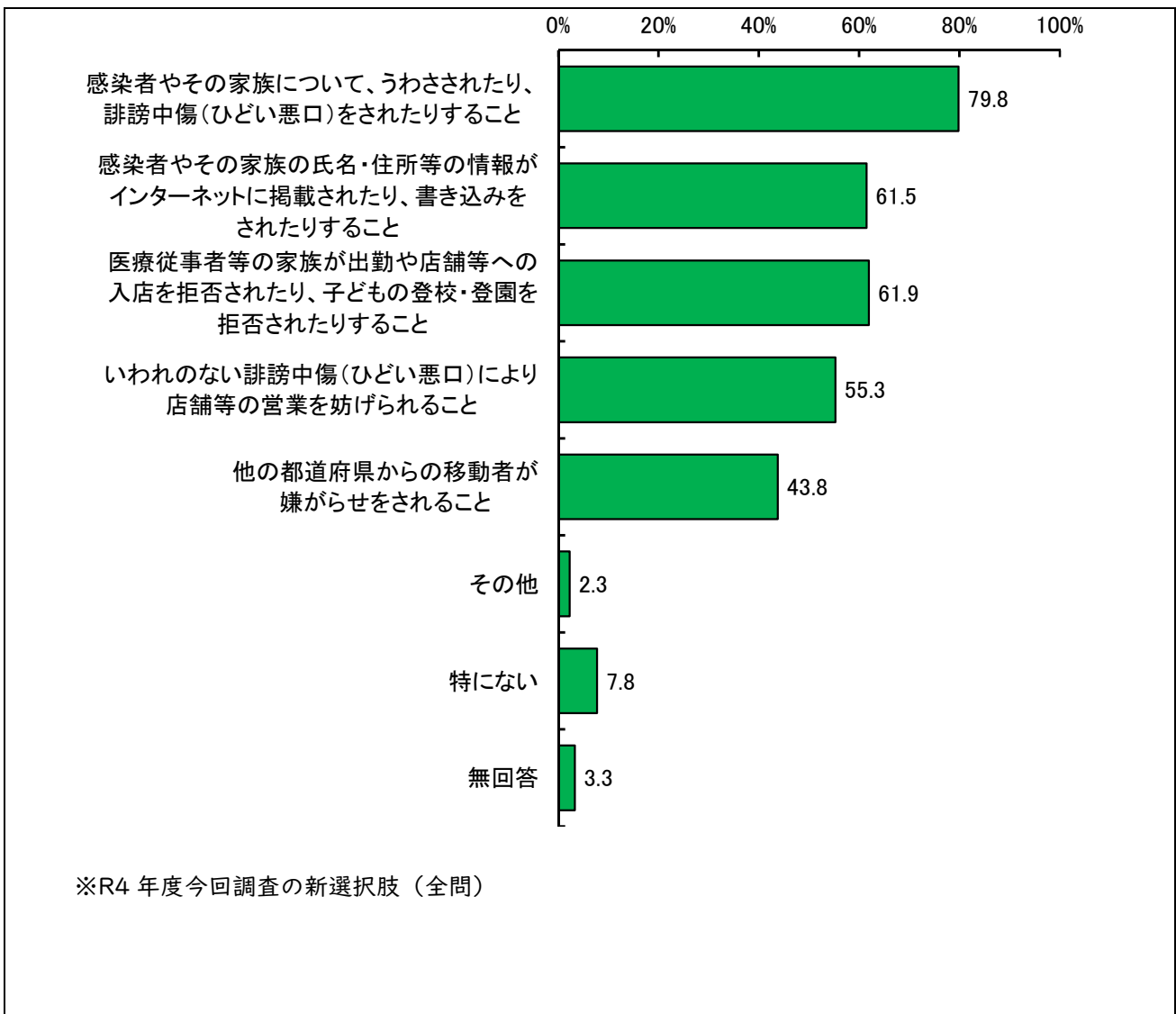
### (3) 新型コロナウイルス感染症の人権問題に関する考え

**問 26** 新型コロナウイルス感染症に関連して、人権が尊重されていないと感じるのはどのような状況に対してですか。(〇はいくつでも)

新型コロナウイルス感染症における人権が守られるために必要なことをたずねたところ、「感染者やその家族について、うわさされたり、誹謗中傷をされたりすること」が79.8%と最も多く、次いで、「医療従事者等の家族が出勤や店舗等への入店を拒否されたり、子どもの登校・登園を拒否されたりすること」(61.9%)「感染者やその家族の氏名・住所等の情報がインターネットに掲載されたり、書き込みをされたりすること」(61.5%)と続いています。

属性別にみると、概ね全体と同様な傾向となっていますが、『男性』で「いわれのない誹謗中傷により店舗等の営業を妨げられること」が多くなっています。

**図表 30** 新型コロナウイルス感染症における人権問題に関する考え (全体/複数回答)



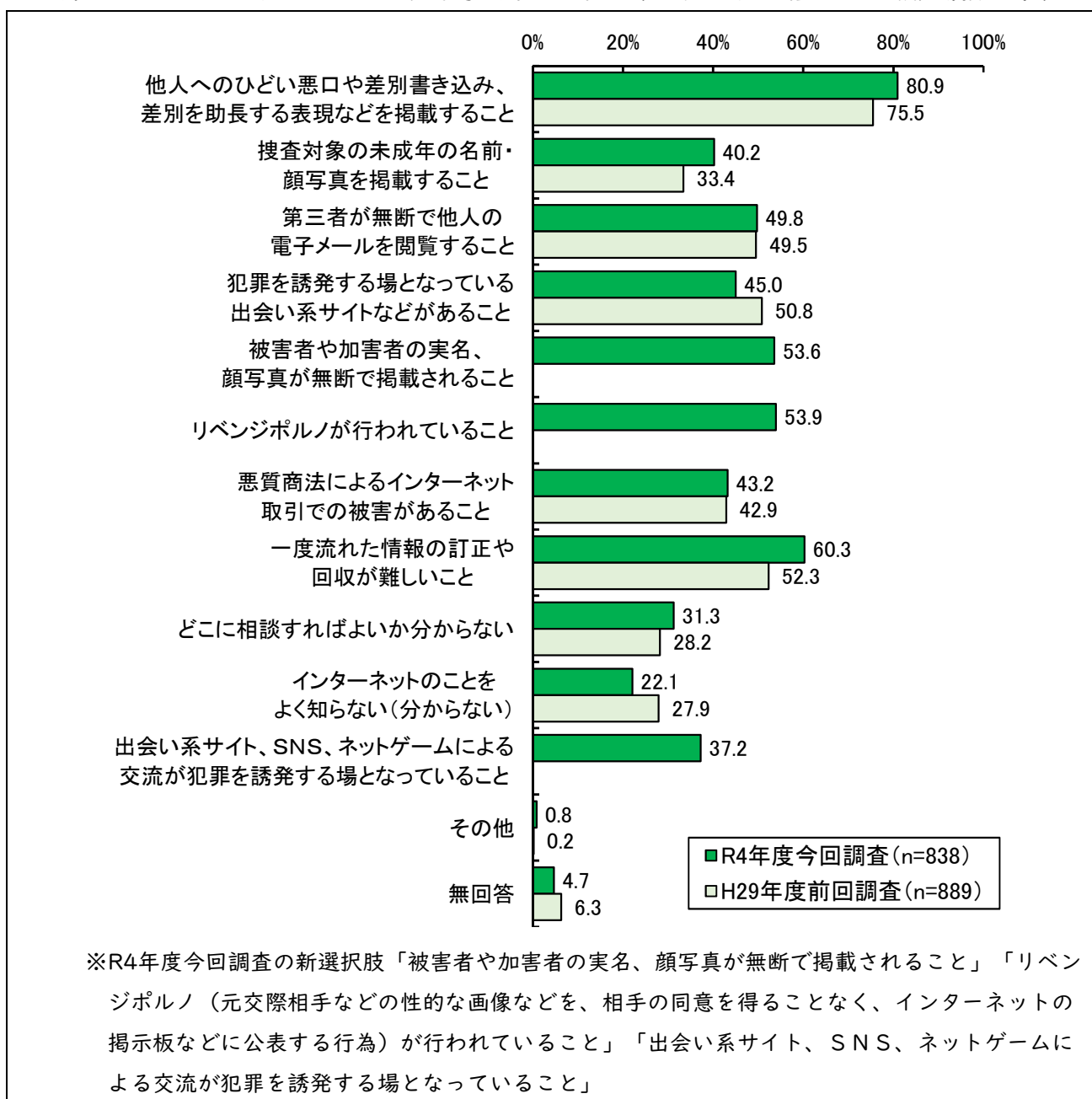
## 9 インターネット上の人権侵害について

### (1) インターネット上の人権問題に関する考え

問 27 インターネット上の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

インターネット上の人権についてどのようなことが問題だと思うかについてたずねたところ、「他人へのひどい悪口や差別書き込み、差別を助長する表現などを掲載すること」が80.9%と最も多くなっています。

図表 31 インターネット上の人権問題に関する考え（全体、前回調査との比較／複数回答）



## (2) インターネット上の人権侵害から人権を守るために必要なこと

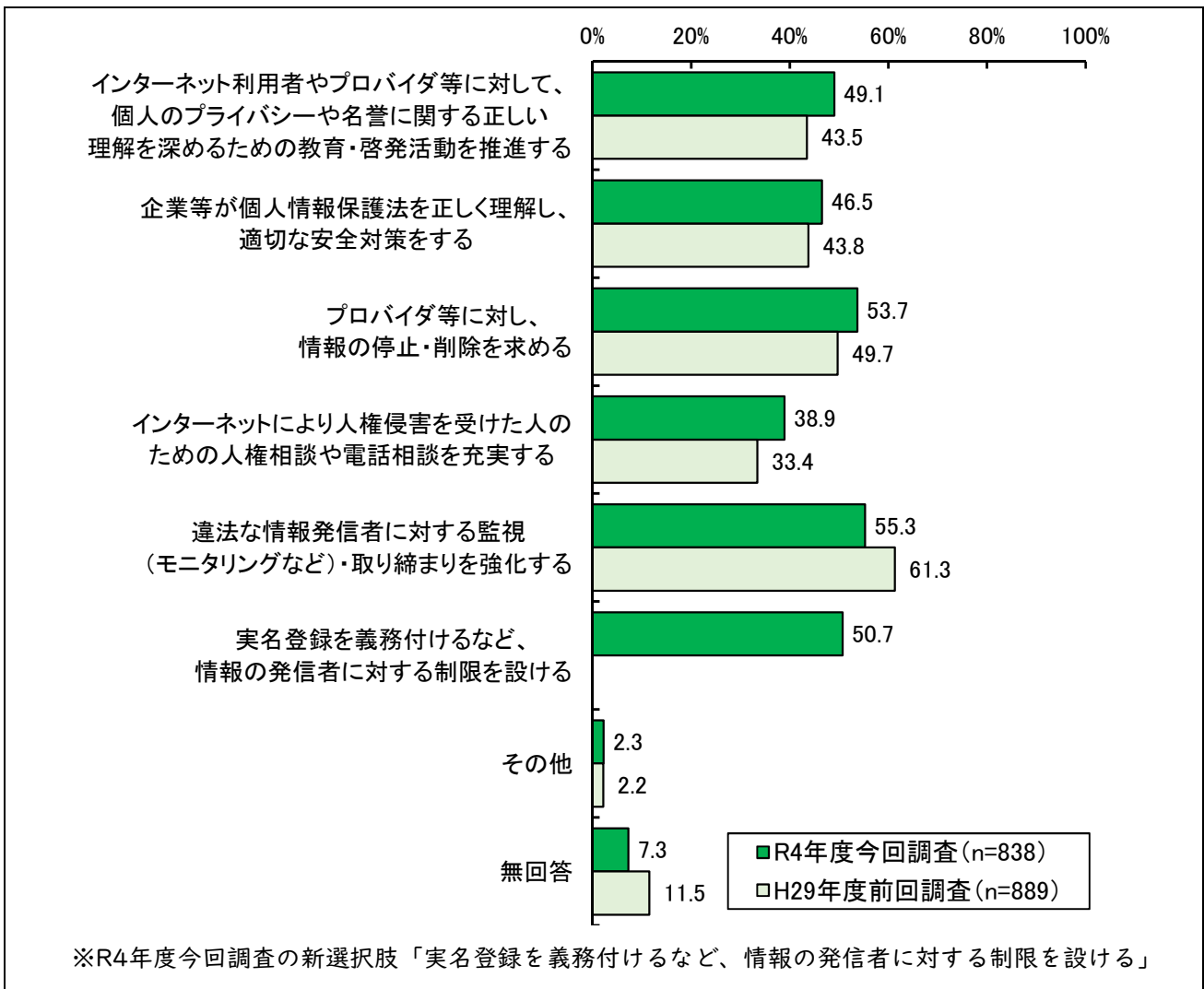
**問 28 インターネットを悪用した人権侵害から人々の人権を守るために、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)**

インターネット上の人権侵害から人権を守るために必要なことをたずねたところ、「違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する」(55.3%)が最も多くなっています。次いで「プロバイダ等に対し、情報の停止・削除を求める」(53.7%)「実名登録を義務付けるなど、情報の発信者に対する制限を設ける」(50.7%)となっています。

違法な行為に対する監視の強化や企業等による安全対策、インターネット利用に関する教育の推進などへの対策が求められています。

属性別にみると、20～30歳代、『学生』『公務員』『旧津島町地域』では個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を求める意見が多くみられます。

図表 32 インターネット上の人権侵害から人権を守るために必要なこと (全体/複数回答)



## 10 性的マイノリティについて

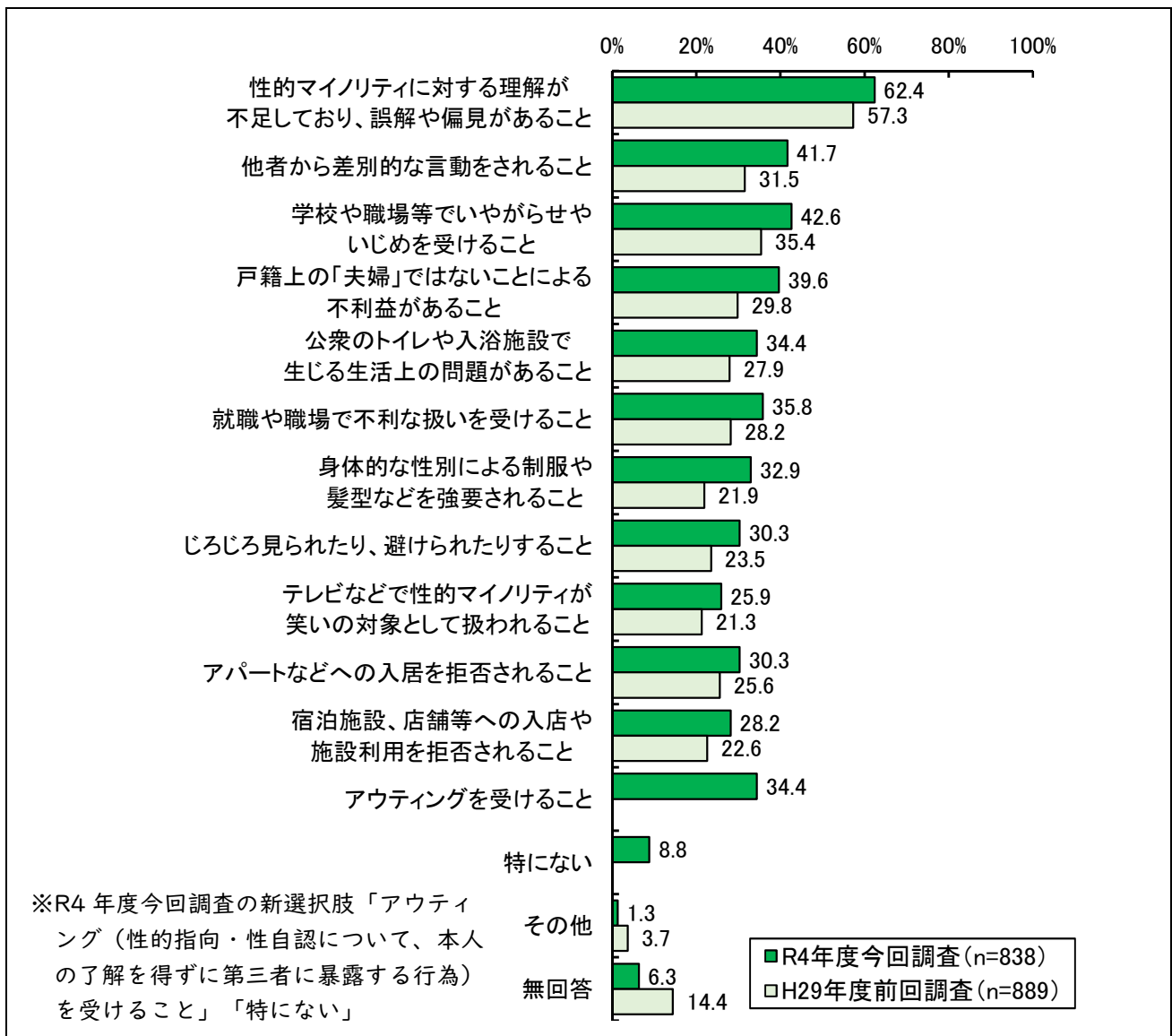
### (1) LGBTQなどの性的マイノリティに関する問題について

**問 29 LGBTQなどの性的マイノリティについて、あなたが、問題があると思うのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)**

性的マイノリティに関して、どのようなことが問題と思うかについてたずねたところ、「性的マイノリティに対する理解が不足しており、誤解や偏見があること」が62.4%と最も多くなっており、次いで、「学校や職場等でいやがらせやいじめを受けること」(42.6%)「他者から差別的な言動をされること」(41.7%)「戸籍上の「夫婦」ではないことによる不利益があること」(39.6%)「就職や職場で不利な扱いを受けること」(35.8%)などとなっています。

性的マイノリティに対する誤解などの理解不足や、法律上の問題、学校や職場での扱われ方などが主な問題としてあげられています。

図表 33 性的マイノリティに関する問題について (全体/複数回答)



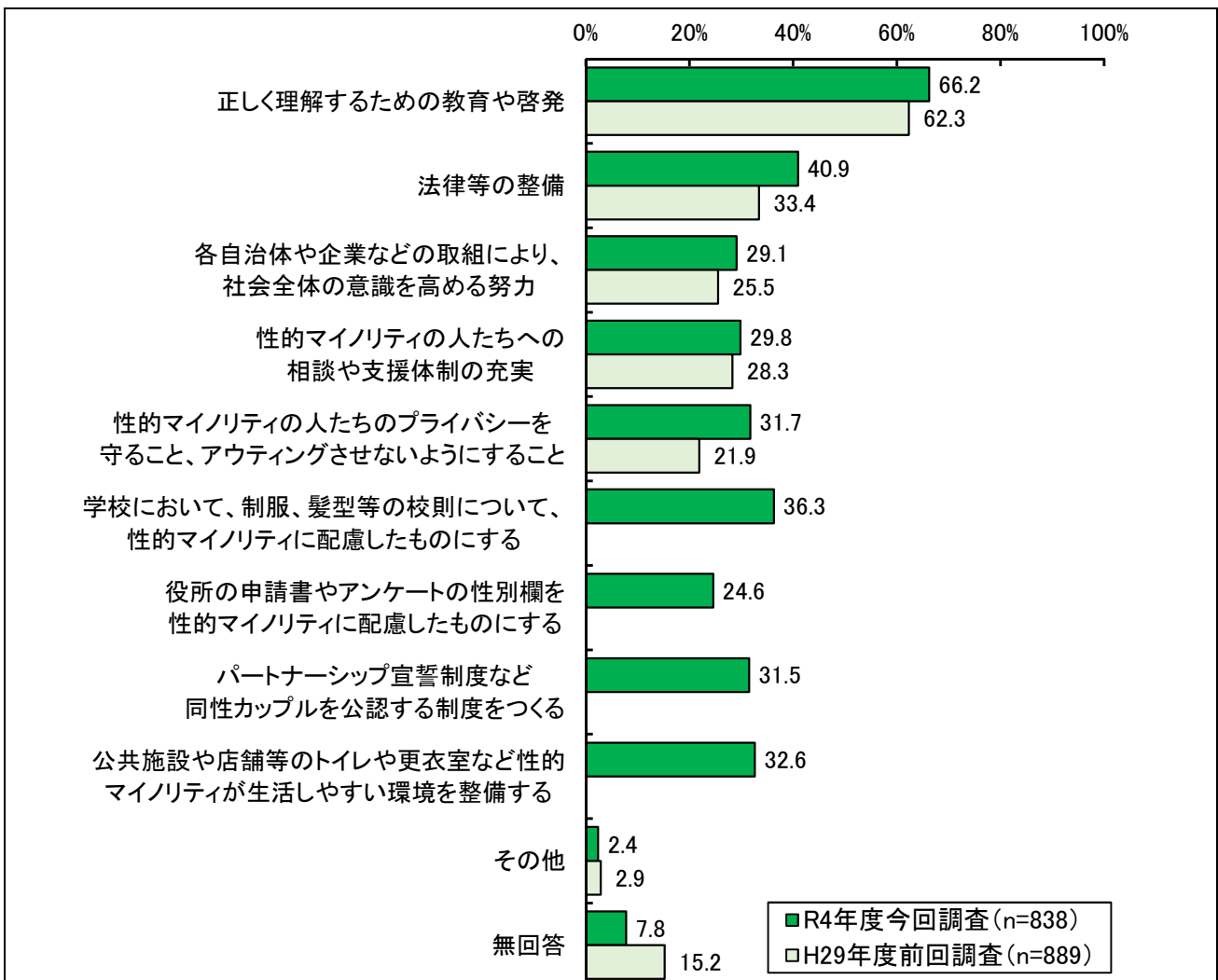
## (2) 性的マイノリティの人権を守るために必要なこと

**問 30 性的マイノリティの人権を守るために、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)**

性的マイノリティの人権を守るために必要なことをたずねたところ、「正しく理解するための教育や啓発」が66.2%と最も多く、性的マイノリティへの正しい理解を推進することが必要とされています。次いで、「法律等の整備」(40.9%)「学校において、制服、髪型等の校則について、性的マイノリティに配慮したもの」(36.3%)「公共施設や店舗等のトイレや更衣室など性的マイノリティが生活しやすい環境を整備する」(32.6%)などとなっています。

前回調査と比べると、「性的マイノリティの人たちのプライバシーを守ること、アウトティングさせないようにすること」が9.8ポイントと最も増加しています。

図表 34 性的マイノリティの人権を守るために必要なこと (全体/複数回答)



※R4年度今回調査の新選択肢「学校において、制服、髪型等の校則について、性的マイノリティに配慮したものにする」「役所の申請書やアンケートの性別欄を性的マイノリティに配慮したものにする」「パートナーシップ宣誓制度など同性カップルを公認する制度をつくる」「公共施設や店舗等のトイレや更衣室など性的マイノリティが生活しやすい環境を整備する」

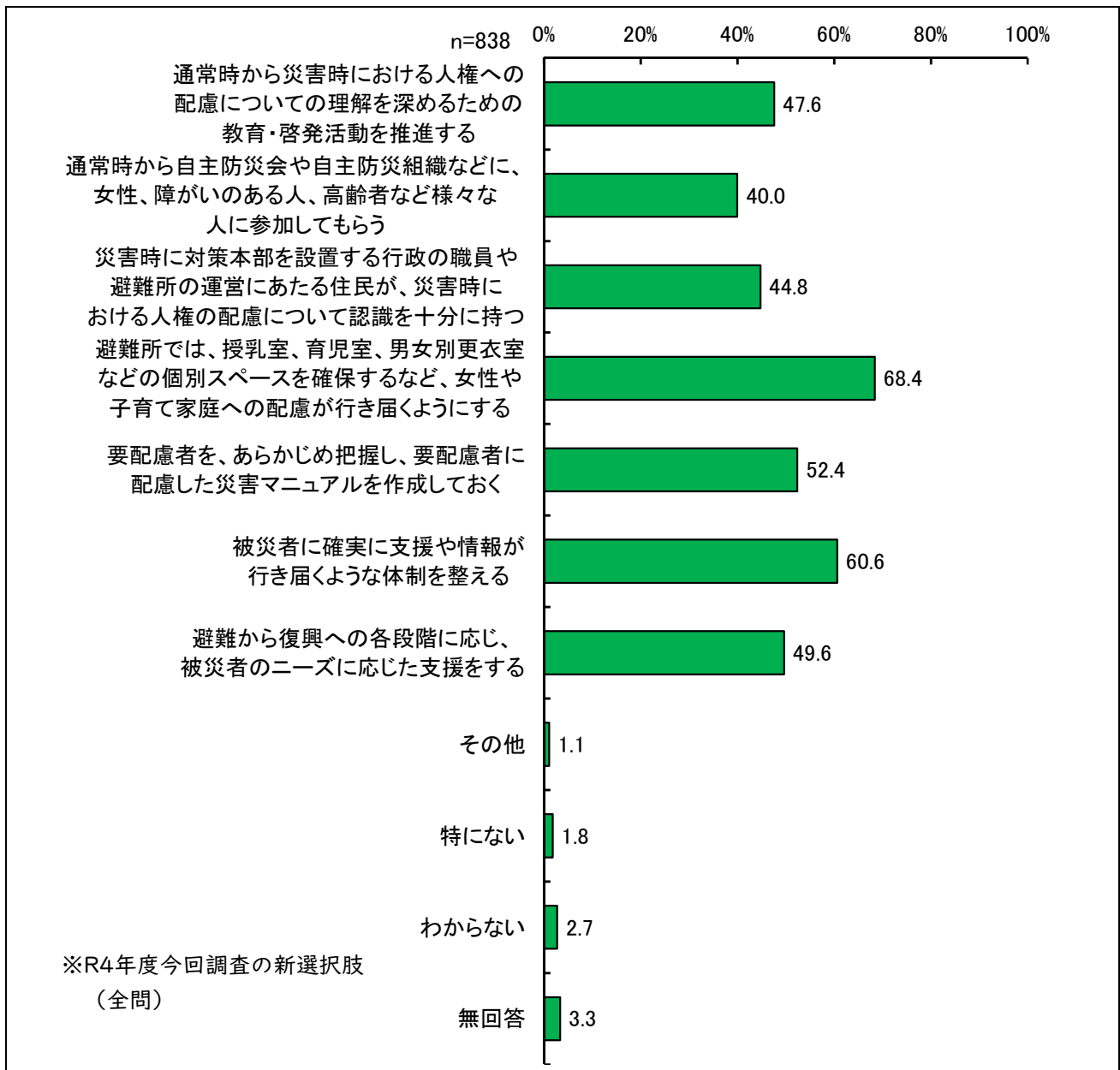
## 11 災害・事故等による風評被害の人権問題について

### (1) 災害・事故等による風評被害の人権問題について

**問 31 地震など災害時において人権に配慮するためには、どのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)**

地震や災害時において人権に配慮するために必要な取組についてたずねたところ、「避難所では、授乳室、育児室、男女別更衣室などの個別スペースを確保するなど、女性や子育て家庭への配慮が行き届くようにする」(68.4%)が最も多くなっています。次いで「被災者に確実に支援や情報が行き届くような体制を整える」(60.6%)「要配慮者を、あらかじめ把握し、要配慮者に配慮した災害マニュアルを作成しておく」(52.4%)となっています。

図表 35 災害・事故等による風評被害の人権問題に必要な取組について (全体、前回調査との比較/複数回答)





## 12 宇和島市の人権教育・啓発について

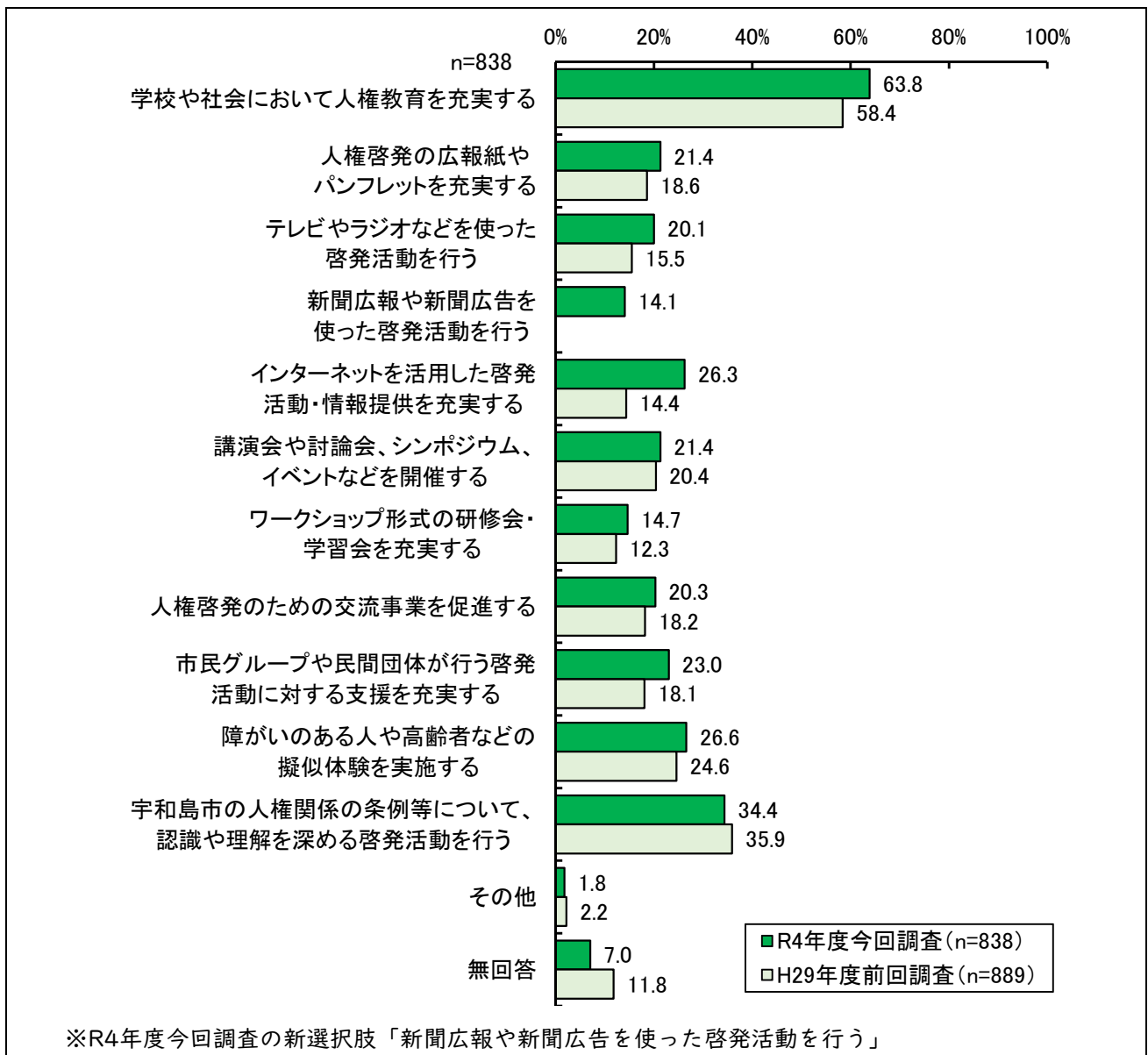
### (1) 宇和島市として今後力を入れる必要がある取組について

**問 32 人権についての理解を深めるために、宇和島市としてどのような取組に力を入れる必要があると思いますか。(〇はいくつでも)**

宇和島市として力を入れる必要がある取組についてたずねたところ、「学校や社会において人権教育を充実する」(63.8%)が最も多くなっており、次いで「宇和島市の人権関係の条例等について、認識や理解を深める啓発活動を行う」(34.4%)、「障がいのある人や高齢者などの擬似体験を実施する」(26.6%)などとなっています。

前回調査と比べると、「インターネットを活用した啓発活動・情報提供を充実する」が11.9ポイントと最も増加しています。

図表 36 宇和島市として力を入れる必要がある取組について(全体、前回調査との比較/複数回答)

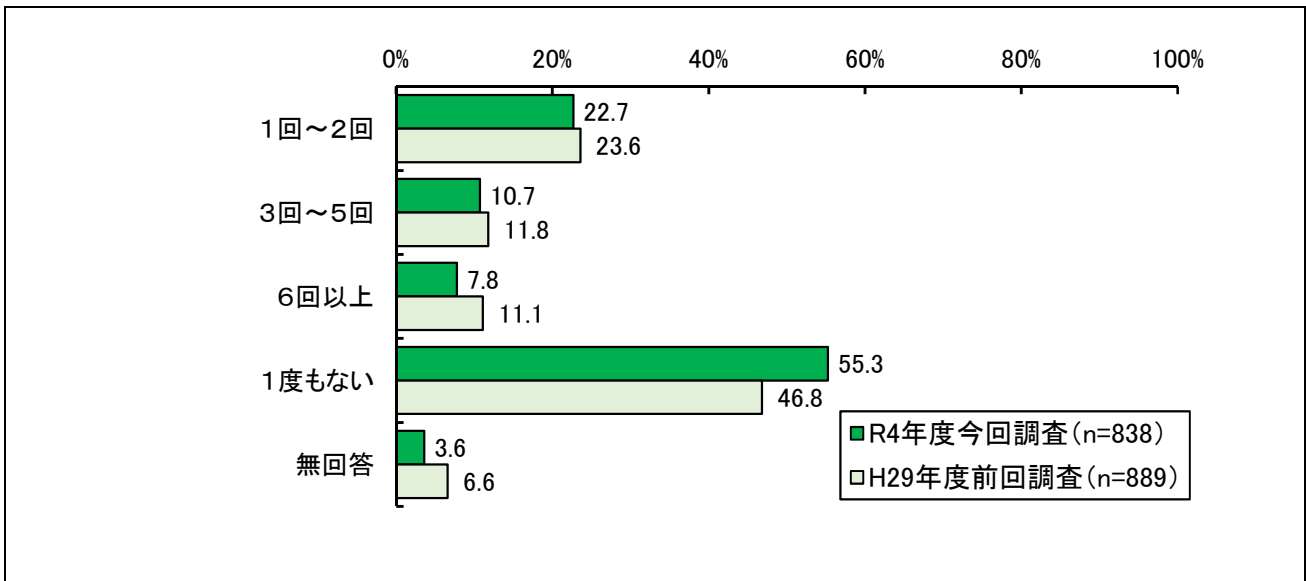


## (2) 人権教育や人権啓発の講演会・研修会等に参加した経験について

**問 33** 宇和島市では人権を尊重しあらゆる差別をなくすため、人権啓発活動や人権・同和教育を推進しています。あなたはこれまでに、このような講演会や研修会・学習会にどの程度参加したことがありますか。(〇は1つ)

人権に関する講演会等への参加頻度については、「1度もない」が55.3%と過半数を占め、前回よりやや増加しています。また、1回～6回以上の参加者は前回よりも減少しています。

図表 37 人権に関する講演会や研修会等への参加頻度（全体、前回調査との比較）



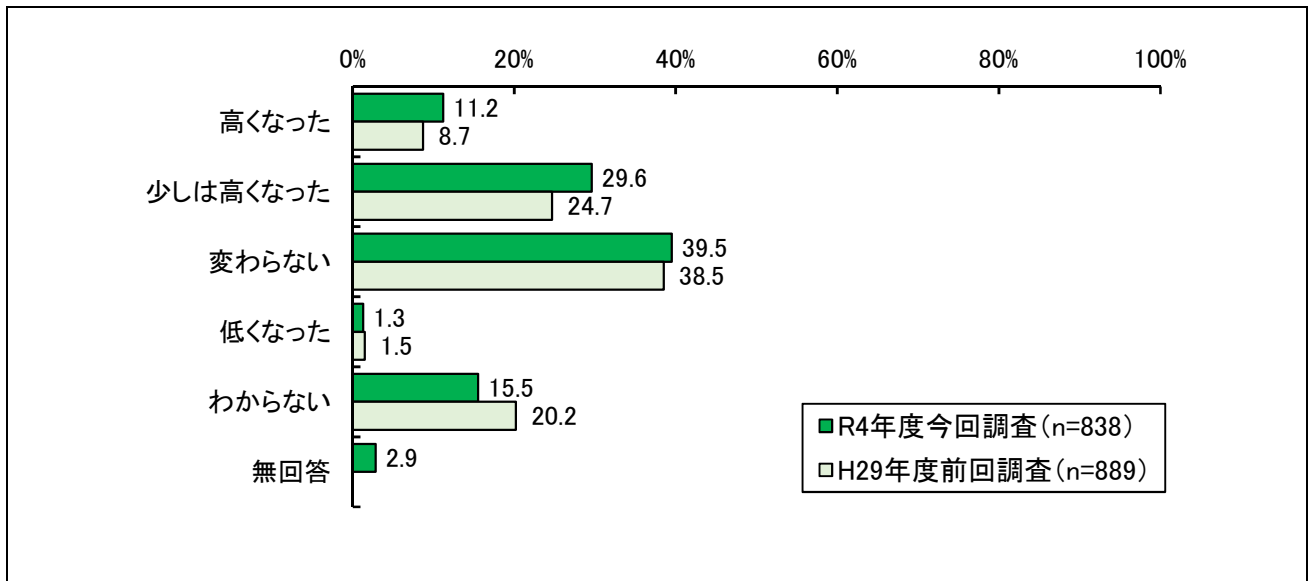
### (3) 人権意識の変化について

問 34 あなた自身の人権意識は、5年前の自分と比べて高くなったと思いますか。  
(〇は1つ)

5年前と比較した時の人権意識の変化についてたずねたところ、「変わらない」が39.5%と約4割を占めています。次いで「少しは高くなった」(29.6%)、「わからない」(15.5%)となっています。

前回調査と比べる、「高くなった」「少し高くなった」がやや高くなっています。

図表 38 5年前と比較した時の人権意識の変化について (全体)

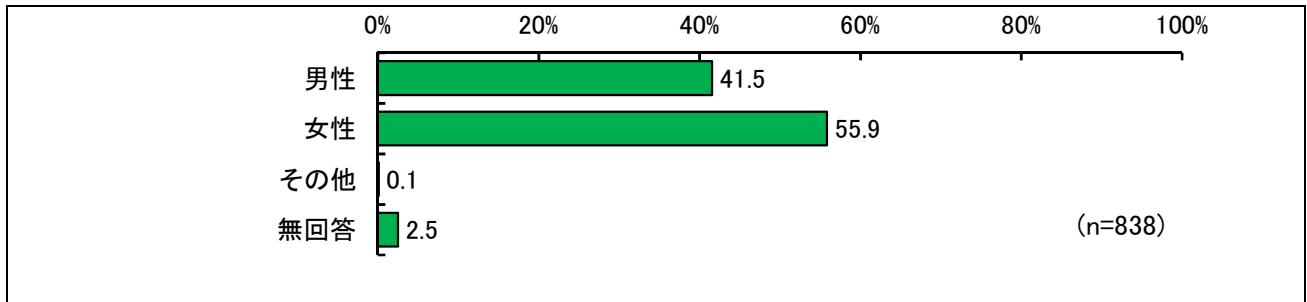


### Ⅲ 回答者の属性

#### Ⅰ あなた自身のことについて

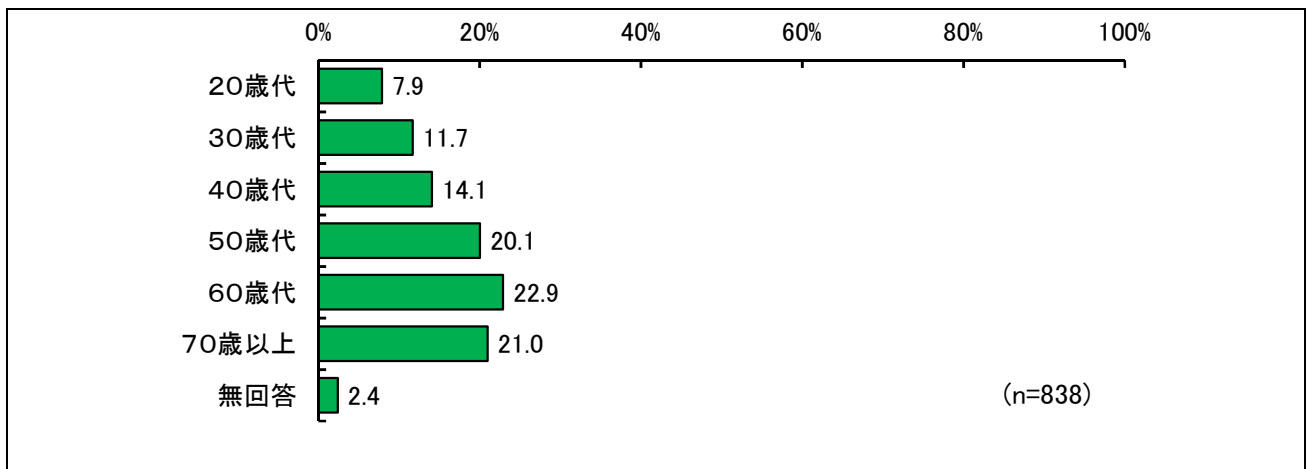
##### (1) あなたの性別は

回答者の性別は、「男性」が 41.5%、「女性」が 55.9%、「その他」が 0.1%となっています。



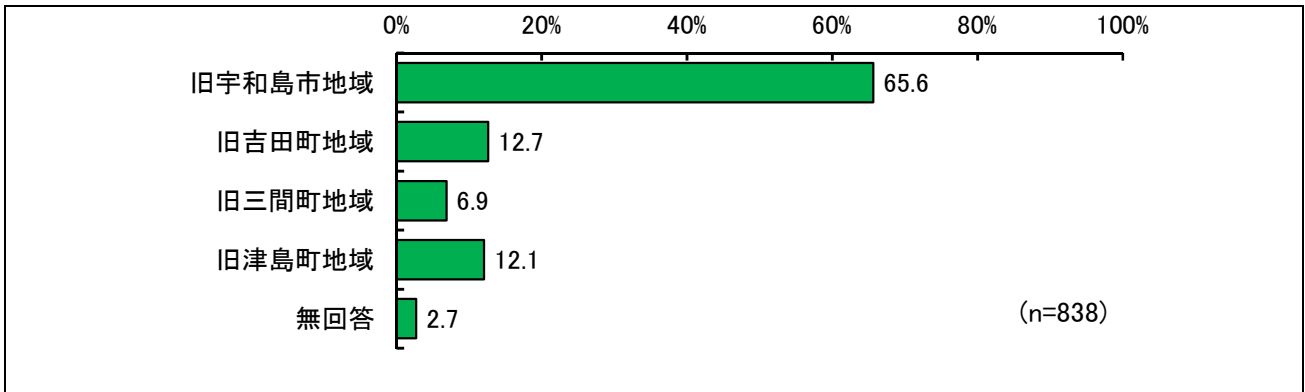
##### (2) あなたの年齢は（令和4年11月1日現在）

回答者の年齢は、「60歳代」が 22.9%で最も多く、次いで「70歳以上」（21.0%）、「50歳代」（20.1%）となっています。



### (3) あなたのお住まいの地域は

居住地域は、「旧宇和島市地域」が 65.6%と 6 割以上を占め、次いで「旧吉田町地域」(12.7%)、「津島町旧地域」(12.1%)「旧三間町地域」(6.9%)となっています。



### (4) あなたの職業は

職業は、「正社員・正職員などの常勤」が 21.4%と最も多く、次いで、「無職」(17.5%)、「派遣社員・アルバイト・パートなど」(16.7%)「専業主婦・主夫」(12.4%)などとなっています。

